

官報

號外

昭和十年二月十七日

○第六十七回衆議院議事速記第十五號

帝國議會

昭和十年二月十六日(土曜日)

午後一時三十分開議

議事日程 第十四號

昭和十年二月十六日

午後一時開議

第一 裁判所構成法中改正法律案(政府提出) 第一讀會

第二 裁判所ノ廢止及設立ニ關スル法律案(政府提出) 第一讀會

第三 大正二年法律第九號中改正法律案(裁判所管轄區域ニ關スル件)(政府提出) 第一讀會

第四 衛生組合法案(田中祐四郎君外二名提出) 第一讀會

第五 傳染病豫防法中改正法律案(田中祐四郎君外二名提出) 第一讀會

第六 衛生組合法案(鷺野米太郎君外五名提出) 第一讀會

第七 傳染病豫防法中改正法律案(鷺野米太郎君外五名提出) 第一讀會

第八 衛生組合法案(野田文一郎君外一名提出) 第一讀會

第九 民事訴訟法中改正法律案(風見章君提出) 第一讀會

第十 民事訴訟法中改正法律案(竹下文隆君提出) 第一讀會

第十一 學生生徒飲酒禁止法案(丸山浪彌君外二名提出) 第一讀會

第十二 郷又ハ町村祿高ニ對シ公債證書給與ニ關スル法律案(寺田市正君外三名提出) 第一讀會

第十三 盲人保護法案(風見章君外一名提出) 第一讀會

第十四 盲人保護法案(松田竹千代君外一名提出) 第一讀會

第十五 產師法案(土屋清三郎君外三名提出) 第一讀會

第十六 產師法案(野方次郎君外四名提出) 第一讀會

第十七 助産師法案(野中徹也君外二名提出) 第一讀會

第十八 度量衡法中改正法律案(東武君外三名提出) 第一讀會

第十九 度量衡法中改正法律案(荒川五郎君外十三名提出) 第一讀會

第二十 度量衡法中改正法律案(山道襄一君外二名提出) 第一讀會

(左ノ報告ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノ爲茲ニ掲載ス)

一 政府ヨリ提出セラレタル議案左ノ如シ

不動産融資及損失補償法中改正法律案

産業組合中央金庫特別融通及損失補償法中改正法律案

昭和八年度歳入歳出總決算

昭和八年度各特別會計歳入歳出決算

昭和八年度歳入歳出決算検査報告

(以上二月十五日提出)

一 昨十五日政府ヨリ昭和八年度國有財産増減總計算書及之ニ添附スベキ各省ノ同増減報告書並會計検査院検査報告ヲ受領セリ

一 議員ヨリ提出セラレタル議案左ノ如シ

検査計理士法案

提出者

中村 繼男君

輸出補償法中改正法律案

提出者

宮本雄一郎君

深澤豐太郎君

癩療養所擴張並癩研究所設立ニ關スル建議案

提出者

川淵 洽馬君

鑛產稅附加稅分割賦課ニ關スル建議案

提出者

松尾 孝之君

貝谷 眞孜君

森 昇三郎君

膽振日高兩支廳管内ヲ煙草耕作區域編入ニ關スル建議案

提出者

松尾 孝之君

松實喜代太君

決議案(地方財政調整ノ件)

提出者

野田文一郎君

伊禮 肇君

高橋壽太郎君

(以上二月十四日提出)

一 議員ヨリ提出セラレタル質問主意書左ノ如シ

日本柑橘北米輸出組合ニ關スル質問主意書

提出者

田村 實君

(以上二月十四日提出)

一 去十四日衆議院規則第十五條但書ニ依リ議長ニ於テ議席ヲ左ノ通變更セリ

一八六 島田 俊雄君

一九七 山口 義一君

一 去十四日ニ於ケル特別委員ノ異動左ノ如シ

借地借家調停法中改正法律案(藤田若水君外四名提出)外六件委員

辭任八並 武治君 補闕藤田 若水君

辭任野村 嘉六君 補闕高橋 義次君

一 昨十五日特別委員理事補闕選舉ノ結果左ノ如シ

昭和十年度一般會計歳出ノ財源ニ充ツル爲公債發行ニ關スル法律案(政府提出)外一件委員

理事 上田 孝吉君(理事鷺野米太郎君本日理事辭任ニ付其ノ補

○議長(濱田國松君) 是ヨリ會議ヲ開キマス、御諮リ致スコトガアリマス、昭和十年度一般會計歳出ノ財源ニ充ツル爲公債發行ニ關スル法律案外一件ノ委員長ヨリ、本日本會議中及今後本會議中ト雖モ委員會ヲ開キタイトノ申出ガアリマシタ、又政府貸付金處理ニ關スル法律案、借地借家調停法中改正法律案外六件ノ兩委員長ヨリ、本日本會議中委員會ヲ開キタイトノ申出ガアリマシタ、何レモ之ヲ許可スルニ御異議アリマセヌカ

○議長(濱田國松君) 御異議ナシト認メマス、仍テ許可致シマス——日程第一乃至第三ハ關聯セル議案ナルニ依リ、一括議題トナスニ御異議アリマセヌカ

○議長(濱田國松君) 御異議ナシト認メマス、仍テ許可致シマス——日程第一乃至第三ハ關聯セル議案ナルニ依リ、一括議題トナスニ御異議アリマセヌカ

○議長(濱田國松君) 御異議ナシト認メマス、仍テ許可致シマス——日程第一乃至第三ハ關聯セル議案ナルニ依リ、一括議題トナスニ御異議アリマセヌカ

○議長(濱田國松君) 御異議ナシト認メマス、仍テ許可致シマス——日程第一乃至第三ハ關聯セル議案ナルニ依リ、一括議題トナスニ御異議アリマセヌカ

○議長(濱田國松君) 御異議ナシト認メマス、仍テ許可致シマス——日程第一乃至第三ハ關聯セル議案ナルニ依リ、一括議題トナスニ御異議アリマセヌカ

○議長(濱田國松君) 御異議ナシト認メマス、仍テ許可致シマス——日程第一乃至第三ハ關聯セル議案ナルニ依リ、一括議題トナスニ御異議アリマセヌカ

○議長(濱田國松君) 御異議ナシト認メマス、仍テ許可致シマス——日程第一乃至第三ハ關聯セル議案ナルニ依リ、一括議題トナスニ御異議アリマセヌカ

○議長(濱田國松君) 御異議ナシト認メマス、仍テ許可致シマス——日程第一乃至第三ハ關聯セル議案ナルニ依リ、一括議題トナスニ御異議アリマセヌカ

○議長(濱田國松君) 御異議ナシト認メマス、仍テ許可致シマス——日程第一乃至第三ハ關聯セル議案ナルニ依リ、一括議題トナスニ御異議アリマセヌカ

○議長(濱田國松君) 御異議ナシト認メマス、仍テ許可致シマス——日程第一乃至第三ハ關聯セル議案ナルニ依リ、一括議題トナスニ御異議アリマセヌカ

○議長(濱田國松君) 御異議ナシト認メマス、仍テ許可致シマス——日程第一乃至第三ハ關聯セル議案ナルニ依リ、一括議題トナスニ御異議アリマセヌカ

○議長(濱田國松君) 御異議ナシト認メマス、仍テ許可致シマス——日程第一乃至第三ハ關聯セル議案ナルニ依リ、一括議題トナスニ御異議アリマセヌカ

○議長(濱田國松君) 御異議ナシト認メマス、仍テ許可致シマス——日程第一乃至第三ハ關聯セル議案ナルニ依リ、一括議題トナスニ御異議アリマセヌカ

○議長(濱田國松君) 御異議ナシト認メマス、仍テ許可致シマス——日程第一乃至第三ハ關聯セル議案ナルニ依リ、一括議題トナスニ御異議アリマセヌカ

○議長(濱田國松君) 御異議ナシト認メマス、仍テ許可致シマス——日程第一乃至第三ハ關聯セル議案ナルニ依リ、一括議題トナスニ御異議アリマセヌカ

○議長(濱田國松君) 御異議ナシト認メマス、仍テ許可致シマス——日程第一乃至第三ハ關聯セル議案ナルニ依リ、一括議題トナスニ御異議アリマセヌカ

○議長(濱田國松君) 御異議ナシト認メマス、仍テ許可致シマス——日程第一乃至第三ハ關聯セル議案ナルニ依リ、一括議題トナスニ御異議アリマセヌカ

○議長(濱田國松君) 御異議ナシト認メマス、仍テ許可致シマス——日程第一乃至第三ハ關聯セル議案ナルニ依リ、一括議題トナスニ御異議アリマセヌカ

○議長(濱田國松君) 御異議ナシト認メマス、仍テ許可致シマス——日程第一乃至第三ハ關聯セル議案ナルニ依リ、一括議題トナスニ御異議アリマセヌカ

○議長(濱田國松君) 御異議ナシト認メマス、仍テ許可致シマス——日程第一乃至第三ハ關聯セル議案ナルニ依リ、一括議題トナスニ御異議アリマセヌカ

○議長(濱田國松君) 御異議ナシト認メマス、仍テ許可致シマス——日程第一乃至第三ハ關聯セル議案ナルニ依リ、一括議題トナスニ御異議アリマセヌカ

○議長(濱田國松君) 御異議ナシト認メマス、仍テ許可致シマス——日程第一乃至第三ハ關聯セル議案ナルニ依リ、一括議題トナスニ御異議アリマセヌカ

○議長(濱田國松君) 御異議ナシト認メマス、仍テ許可致シマス——日程第一乃至第三ハ關聯セル議案ナルニ依リ、一括議題トナスニ御異議アリマセヌカ

○議長(濱田國松君) 御異議ナシト認メマス、仍テ許可致シマス——日程第一乃至第三ハ關聯セル議案ナルニ依リ、一括議題トナスニ御異議アリマセヌカ

○議長(濱田國松君) 御異議ナシト認メマス、仍テ許可致シマス——日程第一乃至第三ハ關聯セル議案ナルニ依リ、一括議題トナスニ御異議アリマセヌカ

○議長(濱田國松君) 御異議ナシト認メマス、仍テ許可致シマス——日程第一乃至第三ハ關聯セル議案ナルニ依リ、一括議題トナスニ御異議アリマセヌカ

○議長(濱田國松君) 御異議ナシト認メマス、仍テ許可致シマス——日程第一乃至第三ハ關聯セル議案ナルニ依リ、一括議題トナスニ御異議アリマセヌカ

○議長(濱田國松君) 御異議ナシト認メマス、仍テ許可致シマス——日程第一乃至第三ハ關聯セル議案ナルニ依リ、一括議題トナスニ御異議アリマセヌカ

○議長(濱田國松君) 御異議ナシト認メマス、仍テ許可致シマス——日程第一乃至第三ハ關聯セル議案ナルニ依リ、一括議題トナスニ御異議アリマセヌカ

○議長(濱田國松君) 御異議ナシト認メマス、仍テ許可致シマス——日程第一乃至第三ハ關聯セル議案ナルニ依リ、一括議題トナスニ御異議アリマセヌカ

○議長(濱田國松君) 御異議ナシト認メマス、仍テ許可致シマス——日程第一乃至第三ハ關聯セル議案ナルニ依リ、一括議題トナスニ御異議アリマセヌカ

○議長(濱田國松君) 御異議ナシト認メマス、仍テ許可致シマス——日程第一乃至第三ハ關聯セル議案ナルニ依リ、一括議題トナスニ御異議アリマセヌカ

第三 大正二年法律第九號中改正法律案
案裁判所管轄區域ニ關スル件(政府提出) 第一讀會

裁判所構成法中改正法律案
裁判所構成法中左ノ通改正ス
第二條ニ左ノ一項ヲ加フ
地方裁判所ハ必要ニ應シ之ヲ民事ノミ
ヲ管轄スルモノ(民事地方裁判所)又ハ
刑事ノミヲ管轄スルモノ(刑事地方裁
判所)ト爲スコトヲ得

第六條第一項中「各裁判所」ヲ「民事地方
裁判所ヲ除ク外各裁判所」ニ改メ同項ノ
次ニ左ノ一項ヲ加フ
前項ニ定メタル檢察ノ權限ハ民事地方
裁判所ニ關シテハ其ノ管轄區域ヲ同シ
クスル刑事地方裁判所ノ檢察局ノ檢察
之ヲ行フ

第八條第一項中「各裁判所」ヲ「各裁判所
及各檢察局」ニ改メ同條第二項ヲ削ル
第十三條ノ三 第十一條第三項第十三條
及前條ニ定メタル地方裁判所長ノ權限
ハ民事地方裁判所及刑事地方裁判所
ノ場合ニ於テハ控訴院長又ハ其ノ指定
シタル民事地方裁判所長若ハ刑事地方
裁判所長之ヲ行フ

第十九條第二項中「各地方裁判所」ヲ「民
事地方裁判所及刑事地方裁判所ヲ除ク外
各地方裁判所」ニ改メ同條ニ左ノ一項ヲ
加フ
民事地方裁判所及刑事地方裁判所ニ一
若ハ二以上ノ部ヲ設ク

第二十五條ノ三 民事地方裁判所及刑事
地方裁判所アル場合ニ於テ裁判事務上
必要アリト認ムルトキハ控訴院長ハ民
事地方裁判所又ハ刑事地方裁判所ノ判
事ニ其管轄區域ヲ同シスル刑事地方
裁判所又ハ民事地方裁判所ノ判事ノ代

理ヲ命スルコトヲ得
第七十一條ノ二中「關東廳法院判官又ハ
關東廳法院檢察官」ヲ「關東法院判官又ハ
關東法院檢察官」ニ改ム
第七十二條第二號中「郡」ヲ削ル
第八十六條第一項ヲ左ノ如ク改メ同條第
二項中「檢察局」ヲ「區裁判所檢察局」ニ、
同條第三項中「監督書記及書記長」ヲ「書
記長及監督書記」ニ改ム
大審院大審院檢察局及控訴院ノ書記課
ニ書記長ヲ置ク控訴院檢察局地方裁判
所及地方裁判所檢察局ノ書記課ニ監督
書記ヲ置ク
第九十五條第一項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ
民事地方裁判所及刑事地方裁判所アル
場合ニ於テハ前項ノ委任ハ民事地方裁
判所長ニ對シ之ヲ爲ス
第一百一條 廷丁ハ大審院控訴院及地方裁
判所ニ於テハ裁判所長區裁判所ニ於テ
ハ其ノ一人ノ判事又ハ監督判事之ヲ雇
ヒ及其ノ雇ヲ解ク
第一百三十三條中「裁判所書記課」ヲ「裁判
所及檢察局ノ書記課」ニ改ム
第一百三十五條ニ左ノ一項ヲ加フ
前項第四號ニ定メタル地方裁判所長ノ
其ノ支部及其ノ管轄區域内ノ區裁判所
ニ對スル監督ノ權限ハ民事地方裁判所
及刑事地方裁判所アル場合ニ於テハ控
訴院長又ハ其ノ指定シタル民事地方裁
判所長若ハ刑事地方裁判所長之ヲ行フ
第四百四十二條ニ左ノ一項ヲ加フ
前項ニ定メタル權限ハ民事地方裁判所
ニ關シテハ其ノ管轄區域ヲ同シスル
刑事地方裁判所ノ檢察局之ヲ行フ

附則
本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
裁判所ノ廢止及設立ニ關スル法律案
東京地方裁判所ハ之ヲ廢止ス

東京市ニ民事地方裁判所及刑事地方裁判
所ヲ設立シ民事地方裁判所ヲ東京民事地
方裁判所、刑事地方裁判所ヲ東京刑事地
方裁判所ト稱ス

附則
本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
東京地方裁判所ニ於テ爲シタル事件ノ受
理其ノ他ノ手續ハ民事事件ニ付テハ東京
民事地方裁判所ニ於テ、刑事事件ニ付テ
ハ東京刑事地方裁判所ニ於テ之ヲ爲シタ
ルモノト看做ス

大正二年法律第九號中改正法律案
大正二年法律第九號中左ノ通改正ス
別表裁判所管轄區域地方裁判所ノ欄中
「東京」ヲ「東京民事」ニ改ム
「東京」ヲ「東京刑事」ニ改ム

附則
本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
〔國務大臣(小原直君)登壇〕
○國務大臣(小原直君) 只今上程ニナリマ
シタ裁判所構成法中改正法律案外二件ノ提
案ノ理由ヲ御說明申上ゲタイト存ジマス、
裁判所構成法中改正法律案ノ主眼ト致シマ
スル所ハ、從來通常裁判所ニ於キマシテハ、
民事及刑事ヲ裁判スルコトニナツテ居ルノ
デアリマスルガ、今回地方裁判所ニ付テハ、
民事ノミヲ管轄スル民事地方裁判所ト、刑
事ノミヲ管轄スル刑事地方裁判所ヲ設ケル
コトノ出來ル途ヲ開イタ點デアリマス、是
ハ東京地方裁判所ノ現狀ニ鑑ミマシテ、切
實ニ其必要ヲ感ジテ居ルノデアリマシテ、
東京地方裁判所ニ於ケル事件ノ數、又其職
員ノ數ニ微シマスルト、之ヲ一人ノ地方裁
判所長ノ監督ノ下ニ置イテ、其統制ノ全キ
ヲ期スルコトハ、蓋シ至難ノコト、言ハナ
ケレバナラナイノデアリマス、ソコデ右監
督統制ノ全キヲ期スル爲ニ、職員ノ分野ニ
從ヒマシテ、之ヲ民事刑事、各個ノ地方裁
判所ニ分離獨立セシムルコトガ最モ適當デ

アリ、又必要缺クベカラザルモノデアリマ
ス、是ニ於テ裁判所構成法中改正法律案ト
相俟チマシテ、裁判所ノ廢止及設立ニ關ス
ル法律案ヲ以チマシテ、東京地方裁判所ヲ
廢止致シ、改メテ東京民事地方裁判所及東
京刑事地方裁判所ヲ設立致シマシテ、同時
ニ大正二年法律第九號中改正法律案ヲ以チ
マシテ、東京民事地方裁判所ト東京刑事地
方裁判所ノ管轄區域ヲ、明ニセントスル次
第デアリマス、尙ホ裁判所構成法中改正法
律案ニ付テ、右申シマシタル主眼ノ點ノ外ニ、
裁判所書記其他ニ關スル規定ノ若干ノ改正
モアルノデアリマスルガ、詳細ハ適當ノ機
會ニ於キマシテ御說明申上ゲタイト存ジマ
ス、何卒慎重御審議ノ上、右申述ベマシタ
現在ノ必要ヲ痛感シテ居リマス點ヲ御諒
承下サイマシテ、御協賛ヲ得ルヤウ希望致
シマス次第デアリマス(拍手)

○議長(濱田國松君) 各案ノ審查ヲ付託ス
ベキ委員ノ選舉ニ付テ御諮リヲ致シマス
○青木雷三郎君 日程第一乃至第三ノ三案
ハ一括シテ、藤田若水君外四名提出、借地
借家調停法中改正法律案外六件ノ委員ニ併
セ付託セラレンコトヲ望ミマス
○議長(濱田國松君) 青木君ノ動議ニ御異
議アリマセヌカ
〔異議ナシト呼フ者アリ〕
○議長(濱田國松君) 御異議ナシト認メマ
ス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ、日程第四
乃至第八ハ、同種且ツ關聯セル議案ナルニ
依リ、一括議題トナスニ御異議アリマセヌ
カ
〔異議ナシト呼フ者アリ〕
○議長(濱田國松君) 御異議ナシト認メマ
ス、仍テ日程第四、衛生組合法案、日程第
五、傳染病豫防法中改正法律案、日程第六、
衛生組合法案、日程第七、傳染病豫防法中
改正法律案、日程第八、衛生組合法案、右

五案ヲ一括シテ第一讀會ヲ開キマス、順次提出者ノ趣旨辯明ヲ許シマス——日程第四、第五提出者田中祐四郎君

第四 衛生組合法案（田中祐四郎君外二名提出） 第一讀會

第五 傳染病豫防法中改正法律案（田中祐四郎君外二名提出） 第一讀會

第六 衛生組合法案（鷺野米太郎君外五名提出） 第一讀會

第七 傳染病豫防法中改正法律案（鷺野米太郎君外五名提出） 第一讀會

第八 衛生組合法案（野田文一郎君外一名提出） 第一讀會

衛生組合法案

衛生組合法案

第一條 衛生組合ハ公衆衛生ノ改良發達ヲ圖ルヲ以テ目的トス

第二條 衛生組合ハ法人トス

第三條 衛生組合ハ其ノ目的ヲ達スル爲左ノ事業ヲ行フ

一 衛生思想ノ普及ニ關スル事業

二 傳染性疾患及寄生蟲病ノ豫防救治ニ關スル事業

三 清潔保持ニ關スル事業

四 其ノ他公衆衛生上必要ナル事業

衛生組合ハ行政官廳又ハ市長ノ指示ヲ承ケ前項ノ事業ニシテ國、道府縣又ハ市ニ屬スル事務ヲ補助スルコトヲ得

第四條 衛生組合ノ區域ハ市内ニ於テ市長之ヲ定ム

第五條 衛生組合ハ其ノ區域内ノ世帯主ヲ以テ其ノ組合員トス

衛生組合ハ組合規約ノ定ムル所ニ依リ前項ニ掲グル者ノ外組合區域内ニ學校、病院、工場、倉庫、營業所又ハ事務所等ヲ設クル者ヲ組合員ト爲スコトヲ得

但シ國、道府縣、市町村其ノ他之ニ準ズベキモノハ此ノ限ニ在ラズ

第六條 衛生組合ヲ設立セントスルトキハ其ノ區域内ノ組合員タル資格ヲ有スル者七人以上發起人ト爲リ組合規約ヲ作成シ組合員タル資格ヲ有スル者二分ノ一以上ノ同意ヲ得テ地方長官ノ認可ヲ受クベシ

第七條 地方長官必要アリト認ムルトキハ市長ニ對シ區域ヲ指定シ衛生組合ノ設立ヲ命ズルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ衛生組合ノ設立ヲ命ゼラレタル市長ハ組合規約ヲ作成シ地方長官ノ認可ヲ受クベシ

第八條 衛生組合ハ組合規約ノ定ムル所ニ依リ總會ヲ開キ組合ニ關スル事件ヲ議決ス但シ命令ノ定ムル所ニ依リ代會ヲ以テ總會ニ代フルコトヲ得

總會ニ關スル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第九條 衛生組合ニ組合長及副組合長一人又ハ二人ヲ置ク

組合長及副組合長ハ組合員中ヨリ之ヲ選舉ス

前項ノ選舉ニ關スル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

組合長及副組合長ノ外組合規約ノ定ムル所ニ依リ衛生組合ニ他ノ役員ヲ置クコトヲ得

第十條 組合長ハ組合ヲ代表シ組合一切ノ事務ヲ擔任ス

副組合長ハ組合長ヲ輔佐シ組合長事故アルトキハ其ノ職務ヲ代理ス

副組合長二人アルトキハ組合長ノ豫メ定メタル順序ニ依リ之ヲ代理ス

第十一條 衛生組合ノ經費ハ組合規約ノ定ムル所ニ依リ組合員之ヲ負擔ス

第十二條 組合規約ヲ變更セントスルトキハ市長ヲ經テ地方長官ノ認可ヲ受クベシ

第十三條 地方長官ハ衛生組合ニ對シ監督上必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

市長ハ衛生組合ニ對シ事務ノ報告ヲ爲サシメ、書類帳簿ヲ徴シ、實地ニ就キ事務ヲ視察シ若ハ出納ヲ検査シ又ハ事業ニ關シ必要ナル事項ヲ指示スルコトヲ得

第十四條 地方長官ハ總會ノ議決若ハ選舉又ハ役員ノ行爲ガ法令若ハ組合規約ニ違反シ又ハ公益ヲ害スト認ムルトキハ議決若ハ選舉ヲ取消シ、役員ヲ解任シ、組合ノ事業ヲ停止シ又ハ組合ノ解散ヲ命ズルコトヲ得

第十五條 衛生組合ノ解散、分合及區域ノ變更ニ關スル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

傳染病豫防法ニ依リ設立シタル市内ノ衛生組合ニシテ本法施行ノ際地方長官ノ指定シタルモノハ本法ニ依リ設立シタルモノト看做ス

前項地方長官ノ指定シタル衛生組合ハ遲滞ナク組合規約ヲ定メ地方長官ノ認可ヲ受クベシ

傳染病豫防法中改正法律案

第二十三條 地方長官ハ傳染病豫防救治ノ爲町村内ニ衛生組合ヲ設ケシムルコトヲ得

地方長官ハ衛生組合法ニ依リ衛生組合及前項ノ衛生組合ニ對シ清潔方法消毒方法其ノ他傳染病ノ豫防救治ニ關シ必要ナル事項ヲ指示シテ之ヲ履行セシムルコトヲ得

市町村ハ衛生組合法ニ依リ衛生組合及第一項ノ衛生組合ニ於テ傳染病豫防救

治ノ爲支出スル費用ノ全部又ハ一部ヲ補助スルコトヲ得

第二十四條中「第二十三條第二項」ヲ「第二十三條第三項」ニ改ム

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

衛生組合法案

衛生組合法案

第一條 衛生組合ハ公衆衛生ノ改良發達ヲ圖ルヲ以テ目的トス

第二條 衛生組合ハ法人トス

第三條 衛生組合ハ其ノ目的ヲ達スル爲左ノ事業ヲ行フ

一 衛生思想ノ普及ニ關スル事業

二 傳染性疾患及寄生蟲病ノ豫防救治ニ關スル事業

三 清潔保持ニ關スル事業

四 其ノ他公衆衛生上必要ナル事業

衛生組合ハ行政官廳又ハ市長ノ指示ヲ承ケ前項ノ事業ニシテ國、道府縣又ハ市ニ屬スル事務ヲ補助スルコトヲ得

第四條 衛生組合ノ區域ハ市内ニ於テ市長之ヲ定ム

第五條 衛生組合ハ其ノ區域内ノ世帯主ヲ以テ其ノ組合員トス

衛生組合ハ組合規約ノ定ムル所ニ依リ前項ニ掲グル者ノ外組合區域内ニ學校、病院、工場、倉庫、營業所又ハ事務所等ヲ設クル者ヲ組合員ト爲スコトヲ得但シ國、道府縣、市町村其ノ他之ニ準ズベキモノハ此ノ限ニ在ラズ

第六條 衛生組合ヲ設立セントスルトキハ其ノ區域内ノ組合員タル資格ヲ有スル者七人以上發起人ト爲リ組合規約ヲ作成シ組合員タル資格ヲ有スル者二分ノ一以上ノ同意ヲ得テ地方長官ノ認可ヲ受クベシ

第七條 地方長官必要アリト認ムルトキ

ハ市長ニ對シ區域ヲ指定シ衛生組合ノ設立ヲ命ズルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ衛生組合ノ設立ヲ命ゼラレタル市長ハ組合規約ヲ作成シ地方長官ノ認可ヲ受クベシ

第八條 衛生組合ハ組合規約ノ定ムル所ニ依リ總會ヲ開キ組合ニ關スル事件ヲ議決ス但シ命令ノ定ムル所ニ依リ代會ヲ以テ總會ニ代フルコトヲ得

總會ニ關スル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第九條 衛生組合ニ組合長及副組合長一人又ハ二人ヲ置ク

組合長及副組合長ハ組合員中ヨリ之ヲ選舉ス

前項ノ選舉ニ關スル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

組合長及副組合長ノ外組合規約ノ定ムル所ニ依リ衛生組合ニ他ノ役員ヲ置クコトヲ得

第十條 組合長ハ組合ヲ代表シ組合一切ノ事務ヲ擔任ス

副組合長ハ組合長ヲ輔佐シ組合長事故アルトキハ其ノ職務ヲ代理ス

副組合長二人アルトキハ組合長ノ豫メ定メタル順序ニ依リ之ヲ代理ス

第十一條 衛生組合ノ經費ハ組合規約ノ定ムル所ニ依リ組合員之ヲ負擔ス

第十二條 組合規約ヲ變更セントスルトキハ市長ヲ經テ地方長官ノ認可ヲ受クベシ

第十三條 地方長官ハ衛生組合ニ對シ監督上必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

市長ハ衛生組合ニ對シ事務ノ報告ヲ爲サシメ、書類帳簿ヲ徴シ、實地ニ就キ事務ヲ視察シ若ハ出納ヲ検査シ又ハ事業ニ關シ必要ナル事項ヲ指示スルコトヲ得

第十四條 地方長官ハ總會ノ議決若ハ選舉又ハ役員ノ行為ガ法令若ハ組合規約ニ違反シ又ハ公益ヲ害スト認ムルトキハ議決若ハ選舉ヲ取消シ、役員ヲ解任シ、組合ノ事業ヲ停止シ又ハ組合ノ解散ヲ命ズルコトヲ得

第十五條 衛生組合ノ解散、分合及區域ノ變更ニ關スル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

附則
本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

傳染病豫防法ニ依リ設立シタル市内ノ衛生組合ニシテ本法施行ノ際地方長官ノ指定シタルモノハ本法ニ依リ設立シタルモノト看做ス

前項地方長官ノ指定シタル衛生組合ハ遲滞ナク組合規約ヲ定メ地方長官ノ認可ヲ受クベシ

傳染病豫防法中改正法律案
傳染病豫防法中左ノ通改正ス

第二十三條 地方長官ハ傳染病豫防救治ノ爲町村内ニ衛生組合ヲ設ケシムルコトヲ得

地方長官ハ衛生組合法ニ依ル衛生組合及前項ノ衛生組合ニ對シ清潔方法消毒方法其ノ他傳染病ノ豫防救治ニ關シ必要ナル事項ヲ指示シテ之ヲ履行セシムルコトヲ得

市町村ハ衛生組合法ニ依ル衛生組合及第一項ノ衛生組合ニ於テ傳染病豫防救治ノ爲支出スル費用ノ全部又ハ一部ヲ補助スルコトヲ得

第二十四條中「第二十三條第二項」ヲ「第二十三條第三項」ニ改ム

附則
本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

衛生組合法案
衛生組合法

第一條 衛生組合ハ公衆衛生ノ改良發達ヲ圖ルヲ以テ目的トス

第二條 衛生組合ハ法人トス

第三條 衛生組合ハ其ノ目的ヲ達スル爲左ノ事業ヲ行フ
一 衛生思想ノ普及ニ關スル事業
二 傳染性疾患及寄生蟲病ノ豫防救治ニ關スル事業

三 清潔保持ニ關スル事業

四 其ノ他公衆衛生上必要ナル事業

衛生組合ハ行政官廳又ハ市長ノ指示ヲ承ケ前項ノ事業ニシテ國、道府縣又ハ市ニ屬スル事務ヲ補助スルコトヲ得

第四條 衛生組合ノ區域ハ市内ニ於テ市長之ヲ定ム

第五條 衛生組合ハ其ノ區域内ノ世帯主ヲ以テ其ノ組合員トス

衛生組合ハ組合規約ノ定ムル所ニ依リ前項ニ掲グル者ノ外組合區域内ニ學校、病院、工場、倉庫、營業所又ハ事務所等ヲ設クル者ヲ組合員ト爲スコトヲ得

但シ國、道府縣、市町村其ノ他之ニ準ズベキモノハ此ノ限ニ在ラズ

第六條 衛生組合ヲ設立セントスルトキハ其ノ區域内ノ組合員タル資格ヲ有スル者七人以上發起人ト爲リ組合規約ヲ作成シ組合員タル資格ヲ有スル者二分ノ一以上ノ同意ヲ得テ地方長官ノ認可ヲ受クベシ

第七條 地方長官必要アリト認ムルトキハ市長ニ對シ區域ヲ指定シ衛生組合ノ設立ヲ命ズルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ衛生組合ノ設立ヲ命ゼラレタル市長ハ組合規約ヲ作成シ地方長官ノ認可ヲ受クベシ

第八條 衛生組合ハ組合規約ノ定ムル所ニ依リ總會ヲ開キ組合ニ關スル事件ヲ議決ス但シ命令ノ定ムル所ニ依リ代會ヲ以テ總會ニ代フルコトヲ得

總會ニ關スル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第九條 衛生組合ニ組合長及副組合長一人又ハ二人ヲ置ク

組合長及副組合長ハ組合員中ヨリ之ヲ選舉ス

前項ノ選舉ニ關スル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

組合長及副組合長ノ外組合規約ノ定ムル所ニ依リ衛生組合ニ他ノ役員ヲ置クコトヲ得

第十條 組合長ハ組合ヲ代表シ組合一切ノ事務ヲ擔任ス

副組合長ハ組合長ヲ輔佐シ組合長事故アルトキハ其ノ職務ヲ代理ス

副組合長二人アルトキハ組合長ノ豫メ定メタル順序ニ依リ之ヲ代理ス

第十一條 衛生組合ノ經費ハ組合規約ノ定ムル所ニ依リ組合員之ヲ負擔ス

第十二條 組合規約ヲ變更セントスルトキハ市長ヲ經テ地方長官ノ認可ヲ受クベシ

第十三條 地方長官ハ衛生組合ニ對シ監督上必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

市長ハ衛生組合ニ對シ事務ノ報告ヲ爲サシメ、書類帳簿ヲ徴シ、實地ニ就キ事務ヲ視察シ若ハ出納ヲ検査シ又ハ事業ニ關シ必要ナル事項ヲ指示スルコトヲ得

第十四條 地方長官ハ總會ノ議決若ハ選舉又ハ役員ノ行為ガ法令若ハ組合規約ニ違反シ又ハ公益ヲ害スト認ムルトキハ議決若ハ選舉ヲ取消シ、役員ヲ解任シ、組合ノ事業ヲ停止シ又ハ組合ノ解散ヲ命ズルコトヲ得

第十五條 衛生組合ノ解散、分合及區域ノ變更ニ關スル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
傳染病豫防法ニ依リ設立シタル市内ノ衛生組合ニシテ本法施行ノ際地方長官ノ指定シタルモノハ本法ニ依リ設立シタルモノト看做ス
前項地方長官ノ指定シタル衛生組合ハ遲滞ナク組合規約ヲ定メ地方長官ノ認可ヲ受クベシ

〔田中祐四郎君登壇〕

○田中祐四郎君 只今上程サレテ居リマスル衛生組合法案竝ニ傳染病豫防法中改正法律案ノ提出者トシテ、趣旨辯明ヲ致シタイト存ジマス、此兩案ハ、曩ニ幾回カ本院ノ議ヲ經マシテ、所謂衆議院案トシテ貴族院ニ回付サレ、何時モ貴族院デハ審議未了ニ終ルノデアリマス、サウシテ未ダ國法トシテ實現サレテ居リマセヌコトハ、洵ニ遺憾ニ堪ヘヌ次第デアリマス、此法案ノ骨子ト致シマスル所ハ、大體衛生組合法デハ、衛生組合ハ公衆衛生ノ改良發達ヲ圖ルニアルノデアリマシテ、ソシテ組合ヲ法人トスルコト、區域ハ市内ニ於テ市長ガ之ヲ定メルコト、區域内ノ世帯主ハ當然組合員トナルコト、ソレカラ經費徵收ノコト、竝ニ衛生組合ノ機關及監督ニ關スルコト、是ガ法律案ノ骨子デアリマス、又傳染病豫防法中改正法律案ニ付キマシテハ、衛生組合法ノ制定ニ伴ヒマシテ、市町村ト云フ條文中ノカラ市ヲ除クコト、サウシテ字句ノ整理ヲ行ヒマスル、是ダケガ傳染病豫防法中改正法律案ノ變更ニナル趣旨デアリマス、以上ガ大體ノ骨子デアリマスルガ、既ニ數回本院ヲ通過シテ居ル所ノ案デアリマスルカラシテ、内容ノ説明ハ之ヲ省イテ置クコトニ致シタイト存ジマス、此衛生組合法ハ、遠ク大正十年以來、衛生組合ノ各地ノ關係者ヨリ非常ニ熱心ナ運動ガアリ、又市長竝ニ醫師會等カラ、或ハ陳情或ハ建議等ヲ度々

政府ニ致シマシテ、政府ハ遂ニ第五十九議會ニ於キマシテ、政府案トシテ此衛生組合法ヲ提出サレタノデアリマスルガ、不幸ニシテ貴族院ニ於テ是モ審議未了ニ終ラタノデアリマス、洵ニ遺憾デアリマスルガ、本院ヨリ貴族院ニ回付サレタ所ノ案ニ致シマシテモ、政府ハ兎角之ニ贊意ヲ盡シテ居ルヤウデアリマス、曩ニハ政府案トシテ提出シナガラモ、衆議院案ニ對シテハ贊成ヲ盡リ、全ク曩ニ貴族院デ手ヲ焼イタト云フ譯デアリマスルガ、手ヲ束ネテ法律案ニ提出シナイ、而モ第六十四議會ニ貴族院ニ於キマシテハ、其委員會ニ於テ、政府ハ次期ノ議會ニハ必ズ政府案トシテ、此衛生組合法ヲ提案スルト云フコトヲ誓ッタノデアリマスルガ、ソレニモ拘ラズ政府ハ提案ヲシナイ、全ク其誓ヲ反古同様ニ取扱フテ居ル、洵ニ政府ハ不信ナル態度ヲ執ッテ居ルヤウデアリマス（拍手）其言フ所ハ非常ニ關係ガ多イノデアツテ、市ノ衛生事務ニ關係シテ、其建前ヲドウ云フ風ニ市ト此衛生組合トノ關係ヲ分ケテ來ルカ、或ハ法人トスルトカ云々ト云フガ如キ、頗ル慎重ナル調査研究ヲ要スルト言ウテ居ルノデアリマスルガ、其調査研究ト申シマシテモ、大抵程度ノアルモノデアリマシテ、此市ノ衛生事務ニ關シテ重要ナル役割ヲ有ツ所ノ衛生組合、國民ノ衛生保健ニ重大ナル働ヲ致スベキ使命ヲ有ッテ居ル衛生組合法ノ制定ガ、段々遅レニ遅レテ行クト云フコトハ、洵ニ遺憾ナ次第デアルト思フノデアリマス、而モ是ハ國ノ財政ニ大ナル關係アル問題デアリマセヌカラ、政府ハ速ニ調査ヲ遂ゲラレ、サウシテ此案ガ國法トシテ實現スルヤウニ致シタイ、斯ウ考ヘマシテ茲ニ此提案ヲ致シマシタ譯デアリマス

此案ハ御承知ノ如ク政友會、國民同盟、何時モ何時モソレノ各派ヨリ提案サレテ居ル問題デアリマシテ、殆ド説明ヲ要シナイ位デアルト存ジマスカラシテ、ドウカ諸

君ハ是ガ國法トシテ實現致シマスルヤウニ、一層御共鳴ヲ下サイマシテ、速ニ御審議ヲ遂ゲラレ、サウシテ貴族院ニ回付セラシテ、ヤウニ相成リタイト存ジマス、甚ダ簡單ナガラ之ヲ以テ趣旨辯明ト致シマス
○議長（濱田國松君） 日程第六、日程第七、提出者鷲野米太郎君

〔鷲野米太郎君登壇〕

○鷲野米太郎君 私モ衛生組合法案及傳染病豫防法中改正法律案ノ提案者トシテ、皆樣ニ御願致シマス、大體田中君ノ只今ノ提案ノ趣旨ノ御説明デ十分存ジマス、全ク案ノ内容ハ同一ノ案デゴザイマス、此案ガ衆議院ノ問題トナツテ以來十數年ト存ジマス、請願ガ多分七回當院ノ採擇ニナリ、建議案トシテハ二回通過ヲシ、法律案トシテ昨年マデ三回通過ヲ致シテ居ルト存ジマス、貴族院ハ非常ナ好意ヲ以テ此案ヲ迎ヘテ居ルノゴザイマスガ、政府ハドウ云フ譯カ、會テ政府案トシテ內務省カラ提案ニナツテ居ルノ、忽チ豹變致シマシテ、內務省議ガ統一シナイト云フ口實ノ下ニ、調査々々ト云フコトニ名ヲ藉ッテ、貴族院ノ委員會ニ於テ此案ヲ阻止致シテ居ルヤウナ次第デアリマス、多分一昨年デアツタト存ジマスルガ、貴族院ノ委員會ニ於テ政府委員カラ、來年ハ政府案トシテ出スカラ待ッテ貫ヒタイト云フコトデ、貴族院ノ委員會ハ此案ヲ擱置シテ居ッテ答デアリマス、然ル所昨年モ政府案トシテ之ヲ提出シナイモノデアリマスルカラ、私共ガ更ニ此案ヲ提出致シマシテ、皆樣ノ御協賛ヲ經テ、貴族院ニ送付致シマシタ所、政府ハ矢張同様ナコトヲ繰返シマシテ、サウシテ調査々々ニ名ヲ藉ッテ之ヲ阻止致シタノデアリマス、岡田內閣ガ成立致シマシテ、此案ヲ政府ハ提出スルカト見テ居リマシタケレドモ、提出スル模樣ガナイノデ、吾々ハ議員提出案トシテ、本案ヲ提出シタヤウナ次第デアリマスルカラ、ドウカ在來ノ關係

モゴザイマスルカラ、諸君ハ滿腔ノ御同情ヲ表セラレテ、御審議ノ上速ニ本案ヲ通過セシメラレシコトヲ偏ニ御願致ス次第デアリマス（拍手）
○議長（濱田國松君） 日程第八賛成者中川觀秀君

〔中川觀秀君登壇〕

○中川觀秀君 只今上程サレマシタ衛生組合法案ニ對シマシテハ、既ニ御兩君カラモ御説明ガゴザイマシタガ、吾々ノ提案致シテ居リマスル法案モ、矢張内容ニ於テハ同様ナモノデアリマスルカラ、重ネテ此處デ説明ヲ申上ゲル必要ハナイト存ジマス、只今政友會ノ鷲野君カラ御説明ガアリマシタ如クニ、此法案ガ本院ヲ度々通過致シマシタニモ拘ラズ、貴族院ニ於テ阻止サレマシテ、握リ潰サレテ是ガ實現セナイト云フノハ、要スルニ政府當局ニ其誠意ガナイカラデアルト吾々ハ思フノデアリマス、最早今日ニ於テ、全國ノ都市ニ於ケル衛生施設ニ於キマシテ、衛生組合ノ活動シテ居リマスルコト、其事ガ貴族院ノ諸君ニ分ラナイ筈ハナイノデアリマス、之ヲ分ラセナイノハ、政府當局ノ誠意ガナイト云フコトヲ、吾々ハ遺憾ニ思フノデアリマス、本案ハ院內ニ於ケル各派ヲ通ジ一致致シマシタ意見デアリマス、ドウカ本年ハ此案ガ本院ヲ通過致シマシタナラバ、政府當局ハ是ガ實現ノ爲ニ最善ノ努力ヲ拂ハル、コトヲ希望致シマシテ説明ヲ終リマス（拍手）
○議長（濱田國松君） 各案ニ對スル質疑ノ通告ハアリマセヌ
○青木雷三郎君 日程第四乃至第八ノ五案ヲ一括シテ、議長指名十八名ノ委員ニ付託セラレシコトヲ望ミマス
○議長（濱田國松君） 只今ノ青木君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ
〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(濱田國松君) 御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ。日程第九、第十八同種ノ議案ナルニ依リ、一括議題トナスニ御異議アリマセスカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(濱田國松君) 御異議ナシト認メマス、仍テ日程第九、民事訴訟法中改正法律案、日程第十、民事訴訟法中改正法律案、右兩案ヲ一括シテ第一讀會ヲ開キマス、順次提出者ノ趣旨辯明ヲ許シマス。日程第九提出者風見章君

第九 民事訴訟法中改正法律案(風見章君提出)

第一讀會

第十 民事訴訟法中改正法律案(竹下文隆君提出)

第一讀會

民事訴訟法中改正法律案

民事訴訟法中左ノ通改正ス
第五百七十一條第一項第四號中「缺ク可カラサル農産物」ノ下ニ「竝ニ其生産ニ係ル收穫物ノ内次ノ收穫マテ債務者及ヒ其家族ニ必要ナル食料」ヲ加フ

民事訴訟法中改正法律案

民事訴訟法中左ノ通改正ス
第五百七十條第一項第四號中「缺ク可カラサル農産物」ノ下ニ「竝ニ其生産ニ係ル收穫物ノ内次ノ收穫マテ債務者及ヒ其家族ニ必要ナル食料」ヲ加フ

〔風見章君登壇〕

○風見章君

只今上程サレマシタ民事訴訟法中改正法律案ハ、昨年ノ第六十五議會ニ於テ政友會ノ諸君ト、吾々國民同盟ノ同志トガ賛成致シマシテ、本院ヲ通過シタノデアリマス、此案ガ貴族院ニ回付サレマシテ、貴族院デハドウ云フ心組デアッタノカ知レマセスガ、此案ニ對シテハ所謂擱置シヨシテシマッタノデアリマス、併シ此案ガ動機トナリマシテ、貴族院ハ昨年ノ第六十五議會

ニ於テ、政府ハ次ノ議會ニ於テ我國農業者ノ窮狀ヲ緩和スル爲メ必要ナル法律案ヲ提出スベシ、斯ウ云フ決議案ヲ可致シタノデアリマス、勿論此貴族院ノ決議案ニ於テ、必要ナル法律案ヲ提出スベシト云フ文字ハ、吾々ガ衆議院ヲ通過セシメタル民事訴訟法中改正法律案ヲ提出セヨ、斯ウ云フ内容ノ決議デアッタコトハ、諸君御承知ノ通りデアリマス、當時齋藤總理大臣ハ、貴族院ノ此決議ニ對シマシテモ、亦他ノ機會ニ於テモ、衆議院ヲ通過シタル民事訴訟法中改正法律案ハ、確ニ農民ノ要望ニ一致スルノミナラズ、當然國家トシテ爲スベキモノデアルト云フ意味ニ於テ、來ルベキ議會ニ於テ本案ヲ提出スル、斯ウ云フ約束ヲサレタ、斯ウ云フ歴史ヲ有ジテ居ルノデアリマス、デアリマスカラ私共ハ岡田内閣ガ今期議會ノ劈頭ニ於テ、此問題ニ關シテ適當ナル法律案ヲ提出スルガラウト思フテ居リマシタ所ガ、未ダニ提出ガナイノデアリマス、昨年ノ第十六議會ニ於テ、小池四郎君ノ質問ニ對シ小原司法大臣ハ、成程曩ニ齋藤總理大臣ガ次ノ議會ニ提出スル、斯ウ云フ約束ヲシタノデアリカラ、出來ルダケノ準備ヲ整ヘテ提出スル積リダ、斯ウ云フ意味ノ答辯ヲナサレタノデアリマス、小原司法大臣ノ此答辯ハ、全國ノ農民ニ大キナ刺激ヲ與ヘマシテ、大多數ノ農民ハ、此第六十七議會ニ於テハ遲滞ナク、遲レル所ナシニ政府ハ必ズ此問題ニ關スル法案ヲ提出シテ呉レルダラウ、斯様ニ待ッテ居ッタノデアリマスガ、既ニ本議會ニ於テモ今日ニ及ンデ未ダニ提出ガナイ、左様ナ狀態デアリマスル爲ニ、吾々ハ今度ノ議會ニ於テモ本案ヲ提出スルニ至ッタノデアリマス、大體岡田内閣ガ屢、言葉ニ於テハ農民ノ救助問題ニシタリ、農村ノ救済ニ關シテハ誠意アルカノ如キ言葉ヲ弄スルノデアリマスルガ、過般來ノ現内閣ノ政策ニ關スル諸案ノ説明、竝ニ斯ウ

云フヤウナ重大ナル法案ヲ提出ヲ遲滞シテ居ル所ニ見マシテモ、岡田内閣ノ農村問題ニ關スル種々ノ言議ハ、謂ハバ一箇ノ文學論デアッテ、何等眞劍ナル氣持ヲ以テ取扱ッテ居ラナイ、斯ウ云フ印象ヲ與ヘラノ、ノデアリマス、特ニ齋藤内閣以來ノ懸案デアリ、次ノ議會ニ提出スル、斯ウマデ約束シタル本案ヲ、未ダニ提出シナイガ如キハ、岡田内閣ノ怠慢甚シキモノアリト、私共ハ遺憾ニ思ハザルヲ得ナイノデアリマス(拍手)今度ノ議會ニ於テモ、私共ガ本案ヲ提出シ、政友會ノ諸君カラモ本案ガ出デ居ル、斯様ナ重大ナル農村ニ關係ノアル問題デアリマスカラ、民政黨カラモ同じ法案ノ出シコトヲ吾々ハ期待シ、又希望シテ居ッタ、所ガ未ダニ民政黨ノ諸君カラハ、之ニ關スル法案ハ出シテ居ナイノデアリマスルガ、昨年ノ議會ニ於テハ、民政黨ノ諸君ハ所謂舉黨一致此案ニ反對ヲサレタ、若シ今度出サナイトカ、若クハ吾々ノ案ニ反對ナサルト云フナラバ、民政黨トシテハ甚シキ矛盾ナシ、斯ノ如キ重大ナル問題ニ關シ、昨年ハ反對シタ、今年ハマア先ヲ見ヨウト云フ氣持デアリマスカドウカ知リマセスガ、未ダニ提出ガナイノデアリマスルガ、殊ニ民政黨ハ與黨ナシデアリマスカラ、此際ニ吾々ト一緒ニ出シテ呉レタナラバ、如何ニ此案ノ成立ヲ促進サセルカヲ思フ時ニ、民政黨ノ態度ニ私共ハ甚シキ遺憾ノ念ヲ懷カザルヲ得ナイノデアリマス、斯様ナ經過ヲ取ッテ來テ私共ハ本案ヲ提出シタノデアリマスルガ、未ダニ此案ニ關シマシテハ、甚ダ輕率ナル判斷ヲ下シテ、此案ガ如何ニモ亂暴ナ案アルカノ如ク、反對スル者ガナキニシモアラズナンデアリマス、昨年度ニ民政黨ノ諸君ガ反對サレタ如キハ、斯ノ如キ輕率ナル判斷ニ出シタノデハナイカト竊ニ私ハ考ヘザルヲ得ナカッタ、能ク世間デ言フコトダ、此案ヲ通シタラ

銀行ガ困ッテシマフダラウ、冗談デヤナイ、此案ニ依ッテ利益スルガ如キ農民ハ、銀行カラ金ヲ借りラレト云フ裕福ナル家庭デハナイ、隨テ銀行ニハ何モ關係ハアリハシナイ、或ハ肥料ヲ買フ場合ニ、斯フ云フヤウナ法案ガ通ッテハ貸シテ呉レナイダラウ、斯ウ云フヤウナ心配スル者ガアリマスルガ、是モ一知半解ノ見解デアッテ、サウデヤナイ、農民ハ肥料ガナクチャ百姓ハ出來ヤシナイ、ダカラ斯ウ云フ法案ガ通りマシテモ、其必要ナ肥料ヲ買フ爲ニハ、ソレコソハ本當ニ三度ノ飯ヲ二度ニ減ラシマシテモ、肥料代ハ拂ハザルヲ得ナイ、斯ウ云フ境涯ニ居ルノデアリマスカラ、サウ云フヤウナ心配モ勿論アリハシナイ、唯コ、デ特ニ考ヘテ貰ヒタイコトハ、私數日前ノ政府ニ對スル質問ノ當時モ、此事ヲ指摘シタノデアリマスルガ、第二回全國産業組合長會議ガ今年ノ一月二十七日ニ開カレタ、其會議ニ於テ斯ウ云フコトガ決議サレタ「現下經濟界ノ情勢ニ鑑ミ凶作風水害及ビ窮乏養蠶地方ニ於ケル産業組合ニ供給セラレタル各種低利資金ノ中間擱置(三箇年擱置)ヲ認メラル、ヤウ政府ニ要望ス」此決議ガ生レテ來タ事情ヲ考ヘテ見マスルト、成程凶作風水害及窮乏養蠶地方ニ對シテハ、政府ガ折角種々ノ施設ヲ講ジテ呉レルカモ知レマセヌケレドモ、ソレ等ノ施設ニ依ッタノデハ、借金ノ重壓ヲ緩和スルマデニハ立至ラナイノダ、加之ソレ等ノ施設ヲ俟チマシテモ、尙且ツ借金ノ重壓ハ加ハル一方ダ、斯ウ云フ情勢ノ裡ニ置カルレバコソ、全國産業組合會議ハ、借リタ各種低利資金ノ三箇年間据置、謂ハバ三箇年間「モラトリアム」ヲヤツテ貰ヒタイト云フコトヲ政府ニ要望スル決議ヲヤツタ、産業組合長會議ガ斯ノ如キ決議ヲヤツタコトニ鑑ミマシテモ、今日ノ一般農民ガ負債ノ重壓ノ急、加ハルニ惱ミツ、アルコトハ言フ迄モナイ、斯ウ云フヤウナ情勢

デアリマスルカラ、今日只今私共が提案シマシタ如キ法律ヲ作ルコトハ、農民ノ爲ニ一層切實タ、昨年度ニ於テ本案ヲ必要トシタヨリ以上ニ、今年度ニ於テ必要ニナツテ來タノダ、丁度五・一五事件直後ノ臨時議會ニ於テ、農民ノ一部カラ當時問題ニナツタ重大ナル請願ガ議會ニ現ハレタ、其請願ノ一ツノ項目ハ、所謂三箇年間政府貸付金ノ「モラトリアム」、斯ウ云フコトデアッタ、當時一般農民ノ如キ請願ニ關シマシテハ、世間ハ飛ンデモナイコトヲ言ウタヤウニ印象付ケラレタ者モアツタヤウデアリマスガ、今日ハ同ジ問題ニ關シ、産業組合長會議ガ斯ノ如キ決議ヲシテ政府ニ要望シナケレバナラナイ、斯ウ云フ情勢ニマデ入ッテ來タノデアリマスカラ、此情勢ヲ考ヘル時ニ、今年度ニ於テハ昨年度ヨリモ本案ヲ通過セシメル必要ハ、一層切實ニナツテ來タ、斯ウ私共ハ解釋セザルヲ得ナイノデアリマス、左様ナ状態デアリマスルカラ、尙ホ詳シクハ委員會ニ於テ御説明申上ゲルマスケレドモ、何卒通過セシメラシコトヲ切ニ希望スル次第デアリマス(拍手)

(工藤鐵男君發言ヲ求ム)

○議長(濱田國松君) 何デスカ

○工藤鐵男君 質疑ガアリマス

○議長(濱田國松君) ドウ云フ事柄ノ質疑デスカ

○工藤鐵男君 只今ノ提案ニ對シ政府ノ所見ヲ求メマス

○議長(濱田國松君) 趣旨辯明中デアリマスカラ、適宜發言ノ御要求ニ相成リタイト思ヒマス、日程第十提出者竹下文隆君

○竹下文隆君 簡單デアリマスカラ此席ヨリ御許ヲ願ヒマス——私ノ提案致シマシタ法案ハ、風見章君ノト同一デアリマス、其趣旨説明モ亦只今ノ風見君ニ依ッテ能ク盡サレテ居リマス、何卒御審議ノ上宜シク御賛成アラシコトヲ御願致シマス(拍手)

○議長(濱田國松君) 質疑ノ通告ガアリマス——小池四郎君

(工藤鐵男君發言ヲ求ム)

○小池四郎君 簡單デアリマスカラ此席カラ御許ヲ願ヒマス

○議長(濱田國松君) 許可致シマス

○小池四郎君 此際政府ニ本案ニ對シマシテ……

(工藤鐵男君「私ハ本案ニ對スル政府ノ所見ヲ御聽キシタイト思フノデアリマス」ト呼フ)

○議長(濱田國松君) 工藤君、通告ガアリマス

(工藤鐵男君「私ハ早カラ發言ヲ求メテ居ル」ト呼フ)

○議長(濱田國松君) 前以テ通告ガアリマス

○小池四郎君 昨年末ノ議會ニ於キマシテ、司法大臣ハ本案同様ノ内容ヲ有ッテ居リマス案ヲ、政府獨自ノ法案トシテ提出スルヤウ、折角準備ヲ致シテ居ルト云フ御答辯ガアツタデアリマスガ、今日極ク最近ノ機會ニ於キマシテ、政府獨自ノ案ヲ御出シニナル用意成レルヤ否ヤト云フ點ヲ伺ヒタイト思ヒマス、是ガ第一點、ソレカラ果シテ本案ヲ提出致シマスナラバ、民事訴訟法中改正法律案トシテ御出シニナル意圖デアアルヤ否ヤ、第二點、第三點ハ本案ヲ提出ナサルナラバ、其内容ノ重要點デアリマスル差押期間ヲ、三箇月ニナサルト云フ意圖ガ、新聞紙上デ非公式ニ吾々ノ眼ニ入ッタノデアリマスガ、其點ハ事實ナリヤ否ヤト云フ點ガ第三點、以上ニ付キマシテ簡單ニ御答辯ヲ願ヒマス

(國務大臣小原直君登壇)

○國務大臣(小原直君) 小池君ノ御質問ニ御答致シマス、本案ト同一ノ内容ヲ有スル改正案ガ、昨年第六十五議會ニ提案セラレマシテ、ソレガ貴族院ニ於テ審議中ニ、貴族院議員ヨリ決議案ガ提案サレタノデアリマス、其決議案ニ對シテ時ノ齋藤總理大臣ハ、生活安定ニ關シテ適當ノ法律案ヲ、次ノ議會ニ提案スルト云フコトヲ聲明セラレタノデアリマス、此趣旨ヲ現政府ニ於テモ諒解致シマシテ、組閣以來適當ノ案ヲ得ンコトヲ研究中デアアルノデアリマス、略案ガ出來テ居リマシテ「只今司法省カラ農林省、内務省、商工省等ノ關係省ニ協議中デアアルノデアリマス、不日ニ是等ノ協議ガ纏マルデアラウト思ヒマスカラ、近日内ニ必ズ議會ニ提案致シタイト考ヘテ居ル次第デアリマス、第二ノ御質問ノ政府カラ出ス案ハ、矢張民事訴訟法ノ改正案トシテ出ス考デアアルカト云フ御尋デアリマスガ、是ハ矢張民事訴訟法中ノ差押ノ禁止ノ範圍ニ關シテノ改正案トシテ出シタイ考デアリマス、第三ハ差押禁止ニ關スル期間ヲ如何ニ定メルカト云フ御尋デアリマシタガ、是ハ只今御話申上ゲタヤウニ、關係省ト協議中デアリマシテ、未ダ確定致シマセスカラ、茲ニ御答申上ゲルコトハ出來ナイノデアリマス、何レ提案致シマシタナラバ、ソレニ依ッテ御諒解願ヒタイト思ヒマス

○小池四郎君 第三ノ點ニ關シマシテ、マダ明答スルコトガ出來ナイト云フ御答デアリマスガ、提案前ニ一言申上ゲテ置キマス、本案ノ一番ノ骨子ハ、期間ヲ如何ニ決定スルカト云フ點デアリマス、此期間ヲ傳フルガ如ク三箇月ト云フガ如キ、短カイ期間ニ決定サレルナラバ、本案ノ趣旨ト云フモノハ頭カラ没却サレルモノデアルト思ヒマスルガ故ニ、提案以前ニ堅ク此點ヲ司法大臣ニ御警告申上ゲマス

○議長(濱田國松君) 工藤鐵男君

○工藤鐵男君 提案者ノ風見君カラ……

(登壇々々ト呼フ者アリ)

○議長(濱田國松君) 登壇

○工藤鐵男君(續) 趣旨ノ辯明ガアリマシタ、只今小池君ノ御質問ニ依ッテ、政府ノ意ノ在ル所ハ明瞭ニナツタノデアリマス、私共ハ總理大臣ノ此席ニ於ケル聲明ヲ信ジ、必ズ本議會ニ出スデアラウト云フコトヲ確信致シテ居リマシタカラ、三月ノ末マデアル此會期中、政府ノ態度ヲ見テ決シテモ遲クナイデアラウト思ッタノデアリマス、三十何名ノ議員ヲ以テ何ガ出來ルカ……(三十何名トハ何ダ「ト呼フ者アリ」此案ガ實行セラレザルヲ知リナガラ、徒ニ發案權ヲ濫用スルガ如キ態度ハ慎ミタイト思ヒマス、只今司法大臣ノ御説明デハ、近キ將來ニ於テ同一案ヲ提出シ、院議ニ副フト云フヤウナ態度ヲ示スト云フ以上ハ、殊更ニ出來モシナイヤウナ案ヲ出シテ、發案權ヲ弄スルガ如キハ吾々ノ採ラナイ所デアアル、政府ハ果シテ責任ヲ以テ此會期中ニ法案ヲ出ス、其内容如何ニ依ッテハ、吾々モ自ラ決スル所ガアラウト思ヒマス、只今ノ政府ノ聲明ニ依ッテ是レ以上質問ハ致シマセス、國同ノ風見君ガ斯ウ云フ分リ切ツタコトヲ殊更ニ出シテ、同ジ同僚ノ提案權ニ對シテ彼此レ言フガ如キハ以テノ外デアアル、以後ハ慎ムコトガ宜シイト云フコトヲ、此機會ニ一言警告致シテ置キマス

○議長(濱田國松君) 質疑ハ是ニテ終了致シマシタ

○青木雷三郎君 日程第九及第十ノ兩案ハ、一括シテ藤田若水君外四名提出、借地借家調停法中改正法律案外六件ノ委員ニ併セ付託セラシコトヲ望ミマス

○議長(濱田國松君) 青木君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

(異議ナシト呼フ者アリ)

○議長(濱田國松君) 御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ、日程第十一、學生生徒飲酒禁止法案ノ第一讀會ヲ關キマス、提出者ノ趣旨辯明ヲ許シマス——提出者丸山浪彌君

○議長(濱田國松君) 登壇

○工藤鐵男君(續) 趣旨ノ辯明ガアリマシタ、只今小池君ノ御質問ニ依ッテ、政府ノ意ノ在ル所ハ明瞭ニナツタノデアリマス、私共ハ總理大臣ノ此席ニ於ケル聲明ヲ信ジ、必ズ本議會ニ出スデアラウト云フコトヲ確信致シテ居リマシタカラ、三月ノ末マデアル此會期中、政府ノ態度ヲ見テ決シテモ遲クナイデアラウト思ッタノデアリマス、三十何名ノ議員ヲ以テ何ガ出來ルカ……(三十何名トハ何ダ「ト呼フ者アリ」此案ガ實行セラレザルヲ知リナガラ、徒ニ發案權ヲ濫用スルガ如キ態度ハ慎ミタイト思ヒマス、只今司法大臣ノ御説明デハ、近キ將來ニ於テ同一案ヲ提出シ、院議ニ副フト云フヤウナ態度ヲ示スト云フ以上ハ、殊更ニ出來モシナイヤウナ案ヲ出シテ、發案權ヲ弄スルガ如キハ吾々ノ採ラナイ所デアアル、政府ハ果シテ責任ヲ以テ此會期中ニ法案ヲ出ス、其内容如何ニ依ッテハ、吾々モ自ラ決スル所ガアラウト思ヒマス、只今ノ政府ノ聲明ニ依ッテ是レ以上質問ハ致シマセス、國同ノ風見君ガ斯ウ云フ分リ切ツタコトヲ殊更ニ出シテ、同ジ同僚ノ提案權ニ對シテ彼此レ言フガ如キハ以テノ外デアアル、以後ハ慎ムコトガ宜シイト云フコトヲ、此機會ニ一言警告致シテ置キマス

○議長(濱田國松君) 質疑ハ是ニテ終了致シマシタ

○青木雷三郎君 日程第九及第十ノ兩案ハ、一括シテ藤田若水君外四名提出、借地借家調停法中改正法律案外六件ノ委員ニ併セ付託セラシコトヲ望ミマス

○議長(濱田國松君) 青木君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

(異議ナシト呼フ者アリ)

○議長(濱田國松君) 御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ、日程第十一、學生生徒飲酒禁止法案ノ第一讀會ヲ關キマス、提出者ノ趣旨辯明ヲ許シマス——提出者丸山浪彌君

○議長(濱田國松君) 登壇

○工藤鐵男君(續) 趣旨ノ辯明ガアリマシタ、只今小池君ノ御質問ニ依ッテ、政府ノ意ノ在ル所ハ明瞭ニナツタノデアリマス、私共ハ總理大臣ノ此席ニ於ケル聲明ヲ信ジ、必ズ本議會ニ出スデアラウト云フコトヲ確信致シテ居リマシタカラ、三月ノ末マデアル此會期中、政府ノ態度ヲ見テ決シテモ遲クナイデアラウト思ッタノデアリマス、三十何名ノ議員ヲ以テ何ガ出來ルカ……(三十何名トハ何ダ「ト呼フ者アリ」此案ガ實行セラレザルヲ知リナガラ、徒ニ發案權ヲ濫用スルガ如キ態度ハ慎ミタイト思ヒマス、只今司法大臣ノ御説明デハ、近キ將來ニ於テ同一案ヲ提出シ、院議ニ副フト云フヤウナ態度ヲ示スト云フ以上ハ、殊更ニ出來モシナイヤウナ案ヲ出シテ、發案權ヲ弄スルガ如キハ吾々ノ採ラナイ所デアアル、政府ハ果シテ責任ヲ以テ此會期中ニ法案ヲ出ス、其内容如何ニ依ッテハ、吾々モ自ラ決スル所ガアラウト思ヒマス、只今ノ政府ノ聲明ニ依ッテ是レ以上質問ハ致シマセス、國同ノ風見君ガ斯ウ云フ分リ切ツタコトヲ殊更ニ出シテ、同ジ同僚ノ提案權ニ對シテ彼此レ言フガ如キハ以テノ外デアアル、以後ハ慎ムコトガ宜シイト云フコトヲ、此機會ニ一言警告致シテ置キマス

○議長(濱田國松君) 質疑ハ是ニテ終了致シマシタ

○青木雷三郎君 日程第九及第十ノ兩案ハ、一括シテ藤田若水君外四名提出、借地借家調停法中改正法律案外六件ノ委員ニ併セ付託セラシコトヲ望ミマス

○議長(濱田國松君) 青木君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

(異議ナシト呼フ者アリ)

○議長(濱田國松君) 御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ、日程第十一、學生生徒飲酒禁止法案ノ第一讀會ヲ關キマス、提出者ノ趣旨辯明ヲ許シマス——提出者丸山浪彌君

○議長(濱田國松君) 登壇

○工藤鐵男君(續) 趣旨ノ辯明ガアリマシタ、只今小池君ノ御質問ニ依ッテ、政府ノ意ノ在ル所ハ明瞭ニナツタノデアリマス、私共ハ總理大臣ノ此席ニ於ケル聲明ヲ信ジ、必ズ本議會ニ出スデアラウト云フコトヲ確信致シテ居リマシタカラ、三月ノ末マデアル此會期中、政府ノ態度ヲ見テ決シテモ遲クナイデアラウト思ッタノデアリマス、三十何名ノ議員ヲ以テ何ガ出來ルカ……(三十何名トハ何ダ「ト呼フ者アリ」此案ガ實行セラレザルヲ知リナガラ、徒ニ發案權ヲ濫用スルガ如キ態度ハ慎ミタイト思ヒマス、只今司法大臣ノ御説明デハ、近キ將來ニ於テ同一案ヲ提出シ、院議ニ副フト云フヤウナ態度ヲ示スト云フ以上ハ、殊更ニ出來モシナイヤウナ案ヲ出シテ、發案權ヲ弄スルガ如キハ吾々ノ採ラナイ所デアアル、政府ハ果シテ責任ヲ以テ此會期中ニ法案ヲ出ス、其内容如何ニ依ッテハ、吾々モ自ラ決スル所ガアラウト思ヒマス、只今ノ政府ノ聲明ニ依ッテ是レ以上質問ハ致シマセス、國同ノ風見君ガ斯ウ云フ分リ切ツタコトヲ殊更ニ出シテ、同ジ同僚ノ提案權ニ對シテ彼此レ言フガ如キハ以テノ外デアアル、以後ハ慎ムコトガ宜シイト云フコトヲ、此機會ニ一言警告致シテ置キマス

○議長(濱田國松君) 質疑ハ是ニテ終了致シマシタ

○青木雷三郎君 日程第九及第十ノ兩案ハ、一括シテ藤田若水君外四名提出、借地借家調停法中改正法律案外六件ノ委員ニ併セ付託セラシコトヲ望ミマス

○議長(濱田國松君) 青木君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

(異議ナシト呼フ者アリ)

○議長(濱田國松君) 御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ、日程第十一、學生生徒飲酒禁止法案ノ第一讀會ヲ關キマス、提出者ノ趣旨辯明ヲ許シマス——提出者丸山浪彌君

○議長(濱田國松君) 登壇

○工藤鐵男君(續) 趣旨ノ辯明ガアリマシタ、只今小池君ノ御質問ニ依ッテ、政府ノ意ノ在ル所ハ明瞭ニナツタノデアリマス、私共ハ總理大臣ノ此席ニ於ケル聲明ヲ信ジ、必ズ本議會ニ出スデアラウト云フコトヲ確信致シテ居リマシタカラ、三月ノ末マデアル此會期中、政府ノ態度ヲ見テ決シテモ遲クナイデアラウト思ッタノデアリマス、三十何名ノ議員ヲ以テ何ガ出來ルカ……(三十何名トハ何ダ「ト呼フ者アリ」此案ガ實行セラレザルヲ知リナガラ、徒ニ發案權ヲ濫用スルガ如キ態度ハ慎ミタイト思ヒマス、只今司法大臣ノ御説明デハ、近キ將來ニ於テ同一案ヲ提出シ、院議ニ副フト云フヤウナ態度ヲ示スト云フ以上ハ、殊更ニ出來モシナイヤウナ案ヲ出シテ、發案權ヲ弄スルガ如キハ吾々ノ採ラナイ所デアアル、政府ハ果シテ責任ヲ以テ此會期中ニ法案ヲ出ス、其内容如何ニ依ッテハ、吾々モ自ラ決スル所ガアラウト思ヒマス、只今ノ政府ノ聲明ニ依ッテ是レ以上質問ハ致シマセス、國同ノ風見君ガ斯ウ云フ分リ切ツタコトヲ殊更ニ出シテ、同ジ同僚ノ提案權ニ對シテ彼此レ言フガ如キハ以テノ外デアアル、以後ハ慎ムコトガ宜シイト云フコトヲ、此機會ニ一言警告致シテ置キマス

○議長(濱田國松君) 質疑ハ是ニテ終了致シマシタ

○青木雷三郎君 日程第九及第十ノ兩案ハ、一括シテ藤田若水君外四名提出、借地借家調停法中改正法律案外六件ノ委員ニ併セ付託セラシコトヲ望ミマス

○議長(濱田國松君) 青木君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

(異議ナシト呼フ者アリ)

○議長(濱田國松君) 御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ、日程第十一、學生生徒飲酒禁止法案ノ第一讀會ヲ關キマス、提出者ノ趣旨辯明ヲ許シマス——提出者丸山浪彌君

○議長(濱田國松君) 登壇

○工藤鐵男君(續) 趣旨ノ辯明ガアリマシタ、只今小池君ノ御質問ニ依ッテ、政府ノ意ノ在ル所ハ明瞭ニナツタノデアリマス、私共ハ總理大臣ノ此席ニ於ケル聲明ヲ信ジ、必ズ本議會ニ出スデアラウト云フコトヲ確信致シテ居リマシタカラ、三月ノ末マデアル此會期中、政府ノ態度ヲ見テ決シテモ遲クナイデアラウト思ッタノデアリマス、三十何名ノ議員ヲ以テ何ガ出來ルカ……(三十何名トハ何ダ「ト呼フ者アリ」此案ガ實行セラレザルヲ知リナガラ、徒ニ發案權ヲ濫用スルガ如キ態度ハ慎ミタイト思ヒマス、只今司法大臣ノ御説明デハ、近キ將來ニ於テ同一案ヲ提出シ、院議ニ副フト云フヤウナ態度ヲ示スト云フ以上ハ、殊更ニ出來モシナイヤウナ案ヲ出シテ、發案權ヲ弄スルガ如キハ吾々ノ採ラナイ所デアアル、政府ハ果シテ責任ヲ以テ此會期中ニ法案ヲ出ス、其内容如何ニ依ッテハ、吾々モ自ラ決スル所ガアラウト思ヒマス、只今ノ政府ノ聲明ニ依ッテ是レ以上質問ハ致シマセス、國同ノ風見君ガ斯ウ云フ分リ切ツタコトヲ殊更ニ出シテ、同ジ同僚ノ提案權ニ對シテ彼此レ言フガ如キハ以テノ外デアアル、以後ハ慎ムコトガ宜シイト云フコトヲ、此機會ニ一言警告致シテ置キマス

第十一 學生生徒飲酒禁止法案(丸山浪彌君外二名提出) 第一讀會

學生生徒飲酒禁止法案
學生生徒飲酒禁止法

第一條 本法ニ於テ學生生徒ト稱スルハ尋常小學校卒業程度ヲ入學資格トセル法令ニ基ク學校及其レ以上ノ學校(陸海軍諸學校ヲ含マス)ニ在學スル學生生徒ヲ謂フ

第二條 學生生徒ハ成年者ト雖酒類ヲ飲用スルコトヲ得ス

營業者ニシテ其ノ業態上酒類ヲ販賣又ハ供與スル者ハ學生生徒ノ飲用ニ供スルコトヲ知リテ酒類ヲ販賣又ハ供與スルコトヲ得ス

第三條 學生生徒カ其ノ飲用ニ供スル目的ヲ以テ所有又ハ所持スル酒類及其ノ器具ハ行政ノ處分ヲ以テ之ヲ沒收シ又ハ廢棄其ノ他ノ必要ナル處置ヲ爲サシムルコトヲ得

第四條 第二條ノ規定ニ違反シタル者ハ科料ニ處ス

第五條 營業者カ未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ本法ニ依リ之ニ適用スヘキ罰則ハ之ヲ法定代理人ニ適用ス但シ其ノ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

營業者ハ其ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ本法ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ處罰ヲ免ルルコトヲ得ス

明治三十三年法律第五十二號ハ本法ニ依リ犯罪ニ之ヲ準用ス

附則

本法ハ昭和十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

○丸山浪彌君 本案ニ對スル或ル程度ノ論議ハ、既ニ未成年者飲酒禁止法中改正法律

案ノ際ニ、當議場ニ於テ十分ニ檢討セラレテ居リマスルガ故ニ、私ハ酒精性ニ對スル利害云々ハ玆ニ除キマス、唯熟思フニ、方今、我國ノ國勢狀態ヲ達觀スル時ニ於テ、學生生徒ノ飲酒ヲ爲スコトヲ等閑ニ附スルコトガ、果シテ國政ニ忠實ナル所以デアリヤ否ヤト云フコトヲ問ヒタイノデアリマス(拍手)私今多クノ論議ヲ費スノ必要ハナイト思ヒマス、何レ本問題ハ委員會ニ於テ十分各位ノ慎重、眞面目ナル所ノ御議論ヲ拜聽スルコトガ出來ルト思フノデアリマス、唯最後ニ一言申上ゲテ置キタイコトハ、此飲酒禁止法案ハ、或ハ學生ノ嗜好品ヲ奪フモノデアルト云フ攻撃ヲ耳ニスルノデアリマス、吾等提案者ハ、是ハ學生ノ嗜好品ヲ奪フモノニ非ズシテ、眞ニ將來ノ國家ヲ擔ウテ立ツ、柱石タルベキ所ノ學生生徒ヲシテ、心身最モ健實ナル發達ヲ爲サシムル所ノ、慈愛ノ衷心ヨリ出ザルモノデアルト云フコトヲ一言申上ゲテ置キマス(拍手)ドウゾ諸君、本案ハ十分ニ御研究ノ上、絶大ノ御同情、御賛成アラントラ希望致シマス(拍手)

○議長(濱田國松君) 別ニ質疑ノ通告ハアリマセ

○青木雷三郎君 本案ハ田中祐四郎君外二名提出、衛生組合法案外四件ノ委員ニ付託セラレントラ望ミマス

○議長(濱田國松君) 青木君ノ動議ニ御異議アリマセスカ

○議長(濱田國松君) 呼フ者アリ

○議長(濱田國松君) 御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ

十二、郷又ハ町村祿高ニ對シ公債證書給與ニ關スル法律案ノ第一讀會ヲ開キマス、提出者ノ趣旨辯明ヲ許シマス

提出者寺田市正君

第十二 郷又ハ町村祿高ニ對シ公債證書給與ニ關スル法律案(寺田市正君外三名提出) 第一讀會

郷又ハ町村祿高ニ對シ公債證書給與ニ關スル法律案

第一條 明治三年九月十日太政官布告藩制施行以後祿高ヲ有シタル郷又ハ町村ニシテ其ノ祿高ニ對シ公債證書ノ給與ヲ受ケサル者及其ノ給與ニ不足アル者ニ對シテハ明治三十年法律第五十號家祿賞典祿處分法並明治三十二年法律第八十四號家祿賞典祿處分法施行法ヲ準用シ明治三年九月十日以後ノ祿高ニ對シ公債證書給與未濟額ヲ祿高整理ノ爲發行スル公債證書ヲ以テ給與ス

第二條 前條ノ給與ヲ受ケムトスル者ハ本法施行ノ日ヨリ六箇月以内ニ其ノ理由及證據ヲ具シ地方廳ヲ經由シテ大臣ニ願出ツヘシ

第三條 前條ノ願出ニ對シ處分ヲ受ケタル者其ノ處分ニ不服アルトキハ其ノ指令ヲ受取リタル日ヨリ六箇月以内ニ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

附則
本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○寺田市正君 私ハ只今上程サレマシタ、郷又ハ町村祿高ニ對シ公債證書給與ニ關スル法律案ノ提出ノ理由ヲ申上ゲマス、本案ハ先日此席デ末松備一郎君ガ御説明ニナリマシタ家祿賞典祿給與未濟ニ關スル法律案ト全ク同一趣旨ノモノデゴザイマスガ、アノ案ダケデハ獨リ私ノ鹿兒島藩ノミガ恩典ニ浴スルコトガ出來ナイコトニナッテ居リマスノデ、ソコデ御面倒デゴザイマスガ、別ニ法律案ヲ提出致シマシテ、諸君ニ御協賛ヲ御願申上ゲル次第デアリマス、今其理由ヲ極メテ簡單ニ申上ゲマスカラ、暫時御清

聽ヲ願ヒマス

本案ハ明治三年九月十日太政官布告藩政施行以後祿高ヲ有シタル郷又ハ町村ニシテ其祿高ニ對シ公債證書給與ヲ受ケザル者及其給與ニ不足アルモノニ對シテハ明治三十年法律第五十號家祿賞典祿處分法並明治三十二年法律第八十四號家祿賞典祿處分法施行法ヲ準用シテ、明治三年九月十日以後ノ祿高ニ對シ公債證書給與未濟額ヲ祿高整理ノ爲發行スル公債證書ヲ以テ給與サレタシトノ趣旨デゴザイマス、御承知ノ通り舊藩中ニ於キマシテ、當時ノ郷、即チ今日ノ町村ガ祿高ヲ有シタル例ハ鹿兒島藩ノミデアリマス、舊鹿兒島藩ニ於テハ舊藩中、各郷士族率ノ祿高ヨリ軍役高又ハ協力高ト稱シマシテ、各郷ニ之ヲ積立テ、明治九年ニ至ルマデ其高ニ對スル所務米ヲ領收シマシテ、現今ノ所謂常備軍ノ費用トシテ使用致シタルデアリマ

スガ、廢藩後ハ郷ニ於テ設立シタル學校ノ資金、其他郷ノ經費ニ之ヲ使用致シテ居リマス、故ニ他藩ノ士族率ノ祿高ト同ジク、明治九年第八號及第五十二號布告ニ依リ公債處分ヲ受ケベキデアルトハ勿論デゴザイマス、然ルニ明治四年士族率祿高取調帳ニ、誤ッテ右各郷ノ協力高ノ總高ヲ一萬七千餘石トシマシテ届出マシタル爲ニ、之ニ對シマシテハ給與ヲ受ケマシタルケレドモ、當時多數ノ屆漏レガアリマシタルノデ、爾來各郷士族率ヨリ其給與ヲ請願致シマシテ、殊ニ明治二十四年中ニ於キマシテハ、檢地帳其他多數ノ證據書類ニ依リマシテ、詳細ナル調査ヲ致シマシテ、縣知事ニ於キマシテモ其計算ノ内容ヲ調査シテ、多數ノ漏洩アルコトヲ認メマシテ、其處分方ヲ大藏大臣ニ願出マシタルノデゴザイマスガ、大藏省ハ言ヲ左右ニシテ何等ノ給與ヲ致シマセヌ、ソコデ各舊藩ニ檄ヲ飛バシマシテ、大ニ協力致シマシテ一層真相ヲ調査シ、且

ツ帝國議會ニ請願致シマシタ結果ハ、漸次
識者ノ認ムル所トナリマシテ、遂ニ明治三
十年法律第五十號、家祿賞典祿處分法、並ニ
明治三十二年法律第八十四號、家祿賞典祿
處分法施行法ト云フ、此二ツノ法律ノ發布
ヲ見タノデゴザイマス、仍テ此等ノ法律ニ
基キマシテ、各藩士族卒ヨリ大藏大臣ニ請
願致シマシタ所ガ、佐賀、福岡、松山、福
井、福島等、其他各藩ノ士族卒ニ對シマシ
テハ、ソレハ公債ヲ給與致シテ呉レマシ
タ、其總額ハ約四百餘萬圓ニ達シテ居ルノ
デアリマス、然ルニ是ガ率先提唱致シマシ
テ、大ニ調査協力シテ、此二ツノ法律ノ發
布ヲ見ルニ大ナル努力ヲ拂ヒマシタ舊鹿兒
島藩ノ士族卒ノミガ、獨リ未ダ何等ノ恩典
ニ浴スルコトノ出來ナイノハ、甚ダ以テ遺
憾ニ堪ヘザル次第デゴザイマス、何故ニ獨
リ鹿兒島藩ノ士族卒ノミガ、他藩同様ニ家
祿賞典祿ノ公債給與ヲ受クルコトガ出來ナ
イノカト申シマスレバ、ソレハ即チ行政裁
判所ニ於テ、鹿兒島藩ノ士族卒ノ家祿賞典
祿ト云フモノハ、他ノ藩ト異テ協力高又ハ
軍役高ト稱シテ、郷ナル團體ノ祿高デアッ
テ、士族卒ヨリ請求スベキモノデナイト云
フ理由ヲ以テ、大正十一年十二月十八日付
却下ノ判決ヲ致シテ居ルカラデゴザイマ
ス、此判決ガアル爲メ、他藩同様ニ公債給
與ヲ受ケラレヌノデアリマス、殊ニ該判決
ニ於キマシテハ、協力高ハ明治四年士族卒
祿高取調帳記載ノ、一万七千餘石以外ニ屆
漏ナキ旨ヲモ判決ヲ下シテ居ルノデアリマ
ス、然ルニ其後他ノ事件ノ爲ニ鹿兒島縣廳
ヨリ、行政裁判所ニ取寄セマシタル證據書
類中ニ於テ、明治二十四年縣知事ガ確認致
シマシタル願書附屬ノ證據書類、及其計算
書ノ内容ニ依リマシテ、各郷ニ互テ多數ノ
屆漏高アルコトヲ發見致シマシタノデ、最
早疑フノ餘地ナキ確證ガ現ニ保存シテアル
ノデアリマス、斯ノ如キ次第、鹿兒島藩

ノ士族卒ノ有セシ家祿賞典祿ハ他藩ト異リ
マシテ、一種特別ノ郷ナル團體ニ歸屬スル
祿高ト云フコトニ、行政裁判所ガ斷案ヲ下
シテ判決ヲ致シタノデゴザイマス、ソコデ
此様ナ郷又ハ町村祿高ニ對シ公債證書給與
ニ關スル法律案ヲ提出シナケレバ、舊鹿兒
島藩ノ士族ノミハ何等ノ恩典ニ浴スルコト
ノ出來ナイト云フ、慘メナ結果ニ立至ッテ居
ルノデゴザイマス、詰リ昔ノ郷、即チ今ノ
町村ニ歸屬スル祿高ニ對スル公債ノ給與ヲ
受ケタシト云フノガ、本案提出ノ趣旨デゴ
ザイマス、先般本議場ニ八田宗吉君等ガ御
提出ニナッタアノ家祿賞典祿給與未濟ニ關
スル法律案ト、大體同様ノ趣旨ノモノデア
リマスガ、アノ案ハ同僚末松借一郎君ガ御
説明ニ相成リマシタ通り、各藩ノ士族卒個
人ヨリ願出デ、既ニ明治十年以降ノ分ハ公
債ノ給與ヲ受ケタケレドモ、尙ホ明治三年
以後明治九年マデノ分ガ給與未濟ニ
ナッテ居ルカラ、之ヲ給與サレタシトノ
趣旨デアッタノデアリマスガ、私ノ今提
案致シマス此法律ハ、前述ノ通り獨リ鹿
兒島藩ノミガ一種特別ノ制度デアッタト
云フノデ、他藩同様ニ士族卒個人ヨリ請求
スベキモノデハナイ、郷ナル團體ニ歸屬
シテ居ル協力高デアアルカトノ行政裁判所
ノ判決ニ基キマシテ、未ダ何等ノ給與ヲ受
ケテ居ラスノデゴザイマス、ソコデ已ムラ
得ズ此法律ノ制定ヲ特ニ御願申上ゲル次第
デアリマス、既ニ本院ニ於キマシテモ第五
十六議會以來屢、請願、建議案等ガ通過致シ
マシテ、更ニ又第六十四議會及第六十五議
會ニ於キマシテハ本法律案其儘、一字一句ノ
變化ナク、可決通過致シテ居ルノデアリマ
スカラ、今回モ何卒速ニ本案ノ御協賛アラ
ンコトヲ切望致シテ已マヌ次第デアリマス
(拍手)

○議長(濱田國松君) 此際政府ヨリ發言ノ
要求ガアリマス——青木政府委員

(政府委員青木一男君登壇)

○政府委員(青木一男君) 本案ニ對シマシ
テハ、政府ト致シマシテ同意致シ難イト云
フコトヲ申上ゲテ置キタイト思ヒマス、其
理由ニ付キマシテハ、先日他ノ法律案ニ付
テ、政務次官カラ御述ニナリマシタコト、
大體共通ノ點モ多イノデアリマスガ、特ニ
本法律案ニ付キマシテハ、先程提案者ヨリ
御説明モアリマシタ如ク、大正十一年ノ行
政裁判所ノ判決ニ於キマシテ、其内容トシ
テ鹿兒島藩ノ協力高ハ、明治四年屆出ノ士
族卒祿高取調帳記載ノ一万七千餘石ニシテ、
此以外ニ屆出漏ノ協力高ナシト云フコトガ
示サレテ居リマス、若シ此法律案ニ依リマ
シテ、此事件ヲ再ビ取上ゲルコトニナリマ
スレバ、行政裁判所ノ確定判決ニ對シテ、
再審理ノ途ヲ開クコト、ナルノデアリマ
ス、斯ノ如キコトハ今日ノ行政裁判法ノ趣
旨カラ考ヘテ見マシテモ、當ヲ得ナイト思
ヒマス、其他詳細ノ理由ニ付テハ、委員會
ニ於テ申述ベタイト思ヒマス

○議長(濱田國松君) 別ニ質疑ノ通告ハア
リマセ

○青木雷三郎君 本案ハ八田宗吉君外七名
提出、家祿賞典祿給與未濟ニ關スル法律案
委員ニ併セ付託セラレンコトヲ望ミマス

○議長(濱田國松君) 青木君ノ動議ニ御異
議アリマセヌカ

(異議ナシト呼フ者アリ)

○議長(濱田國松君) 御異議ナシト認メマ
ス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ

○青木雷三郎君 日程第十三及第十四ハ延
期セラレンコトヲ望ミマス

○議長(濱田國松君) 青木君ノ動議ニ御異
議アリマセヌカ

(異議ナシト呼フ者アリ)

○議長(濱田國松君) 御異議ナシト認メマ
ス、仍テ兩案ハ延期スルニ決シマシタ、日

程第十五乃至第十七ハ同種ノ議案ナルニ依
リ一括議題トナスニ御異議アリマセヌカ

(異議ナシト呼フ者アリ)

○議長(濱田國松君) 御異議ナシト認メマ
ス、仍テ日程第十五、產師法案、日程第十
六、產師法案、日程第十七、助產師法案、
右三案ヲ一括シテ第一讀會ヲ開キマス、順
次提出者ノ趣旨辯明ヲ許シマス——日程第
十五、提出者土屋清三郎君

第十五 產師法案(土屋清三郎君外三
名提出) 第一讀會

第十六 產師法案(野方次郎君外四名
提出) 第一讀會

第十七 助產師法案(野中徹也君外二
名提出) 第二讀會

產師法案

第一條 產師トハ助產ヲ業トスル者ヲ謂フ

第二條 產師タラムトスル者ハ二十年以
上ノ女子ニシテ左ノ資格ヲ有シ内務大
臣ノ免許ヲ受クルコトヲ要ス

一 修業年限四箇年以上ノ高等女學校
ノ卒業生又ハ之ト同等以上ノ學力ヲ
有スル者ニシテ内務大臣ノ指定シタ
ル產師學校ヲ卒業シタル者

二 外國ノ產師學校ヲ卒業シタル者

ニ於テ產師ノ免許ヲ得タル者ニシテ
命令ノ規定ニ該當スル者

三 產師試驗ニ合格シタル者

產師試驗ハ内務大臣之ヲ行フ

產師試驗ニ關スル事項ハ命令ヲ以テ之
ヲ定ム

第三條 聾者、啞者、盲者又ハ精神病者ニ
對シテハ產師ノ免許ヲ與フルヲ得ス

墮胎ノ罪其ノ他業務ニ關スル罪ヲ犯シ
刑ニ處セラレタル者又ハ禁錮以上ノ刑
ニ處セラレタル者ニ對シテハ產師ノ免
許ヲ與ヘサルコトアルヘシ

第四條 產師ハ妊婦、產婦、褥婦又ハ胎

兒、生兒ニ異常アリト認ムルトキハ直

ニ醫師ノ診療ヲ請ハシムヘシ自ラ其ノ

處置ヲ爲スコトヲ得ス但シ臨時應急ノ

處置ハ此ノ限ニ在ラス

第五條 產師ハ自ラ診察又ハ檢案セスシ

テ死産證書又ハ死胎檢案書ヲ交付スル

コトヲ得ス

第六條 產師ハ何等ノ方法ヲ以テスルヲ

間ハス業務上技能、經歷又ハ命令ヲ以

テ定ムル事項ノ廣告ヲ爲スコトヲ得ス

第七條 產師ハ產簿ヲ備ヘ十箇年間之ヲ

保存スヘシ

第八條 產師ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ道

府縣產師會ヲ設立スヘシ

道府縣產師會ハ日本產師會ヲ設立スル

コトヲ得

產師ハ土地ノ狀況ニ依リ郡市區產師會

ヲ設立スルコトヲ得

產師會ハ法人トス

產師會ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ產事衛

生ノ改良發達ヲ圖ルヲ以テ目的トス

產師會ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ其ノ會

員ヨリ徵收スヘキ收入ニ關シ民事訴訟

ヲ提起スルコトヲ得

前各項ニ規定スルモノノ外產師會ニ關

シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第九條 產師第三條第一項ニ該當スル

キハ其ノ免許ヲ取消スヘシ

產師墮胎ノ罪其ノ他業務ニ關スル罪ヲ

犯シ刑ニ處セラレタルトキ又ハ禁錮以

上ノ刑ニ處セラレタルトキハ免許ヲ取

消シ又ハ期間ヲ定メテ業務ヲ停止スル

コトアルヘシ其ノ免許前ニ係ル場合亦

同シ

前二項ノ取消處分ヲ受ケタル者ト雖第

前三項ノ處分ハ內務大臣之ヲ行フ但シ

第二項ノ處分ヲ行フ場合及改悛ノ情顯

著ナル者ニ對シ前項ノ再免許ヲ與フル

場合ニ於テハ中央衛生會ノ審議ヲ經ル

コトヲ要ス

第十條 免許ヲ受ケスシテ助産ノ業ヲ爲

シタル者又ハ第四條乃至第七條ノ規定

ニ違反シタル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ

科料ニ處ス業務停止中ノ產師ニシテ助

産ノ業ヲ爲シタル者亦同シ

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

產婆規則ハ之ヲ廢止ス

本法施行前產婆名簿ニ登錄セラレタル者

ハ本法ニ依リ產師ノ免許ヲ受ケタル者ト

看做ス

本法施行前地方長官ヨリ業務ノ地域及期

限ヲ定メテ假ニ產婆ノ業ヲ免許セラレタ

ル者ハ本法施行後ト雖仍其ノ業務ヲ爲ス

コトヲ得且其ノ期限ハ申請ニ依リ之ヲ更

新スルコトヲ得

本法施行ノ際從前ノ規定ニ依リ產婆名簿

ニ登錄ヲ受クル資格ヲ有スル者及本法施

行後五箇年以内ニ從前ノ規定ニ依リ產婆

名簿ニ登錄ヲ受クル資格ヲ得タル者ハ第

二條ノ規定ニ拘ラス產師ノ免許ヲ受クル

コトヲ得

產師法案

第一條 產師トハ助産ヲ業トスル者ヲ謂

フ

第二條 產師タラムトスル者ハ二十年以

上ノ女子ニシテ左ノ資格ヲ有シ內務大

臣ノ免許ヲ受クルコトヲ要ス

一 修業年限四箇年以上ノ高等女學校

ノ卒業者又ハ之ト同等以上ノ學力ヲ

有スル者ニシテ內務大臣ノ指定シタ

ニ於テ產師ノ免許ヲ得タル者ニシテ

命令ノ規定ニ該當スル者

三 產師試驗ニ合格シタル者

產師試驗ハ內務大臣之ヲ行フ

產師試驗ニ關スル事項ハ命令ヲ以テ之

ヲ定ム

第三條 聾者、啞者、盲者又ハ精神病者ニ

對シテハ產師ノ免許ヲ與フルヲ得ス

墮胎ノ罪其ノ他業務ニ關スル罪ヲ犯シ

刑ニ處セラレタル者又ハ禁錮以上ノ刑

ニ處セラレタル者ニ對シテハ產師ノ免

許ヲ與ヘサルコトアルヘシ

第四條 產師ハ妊婦、產婦、褥婦又ハ胎

兒、生兒ニ異常アリト認ムルトキハ直

ニ醫師ノ診療ヲ請ハシムヘシ自ラ其ノ

處置ヲ爲スコトヲ得ス但シ臨時應急ノ

處置ハ此ノ限ニ在ラス

第五條 產師ハ自ラ診察又ハ檢案セスシ

テ死産證書又ハ死胎檢案書ヲ交付スル

コトヲ得

第六條 產師ハ何等ノ方法ヲ以テスルヲ

間ハス業務上技能、經歷又ハ命令ヲ以

テ定ムル事項ノ廣告ヲ爲スコトヲ得ス

第七條 產師ハ產簿ヲ備ヘ十箇年間之ヲ

保存スヘシ

第八條 產師ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ道

府縣產師會ヲ設立スヘシ

道府縣產師會ハ日本產師會ヲ設立スル

コトヲ得

產師ハ土地ノ狀況ニ依リ郡市區產師會

ヲ設立スルコトヲ得

產師會ハ法人トス

產師會ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ產事衛

生ノ改良發達ヲ圖ルヲ以テ目的トス

產師會ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ其ノ會

員ヨリ徵收スヘキ收入ニ關シ民事訴訟

キハ其ノ免許ヲ取消スヘシ

產師墮胎ノ罪其ノ他業務ニ關スル罪ヲ

犯シ刑ニ處セラレタルトキ又ハ禁錮以

上ノ刑ニ處セラレタルトキハ免許ヲ取

消シ又ハ期間ヲ定メテ業務ヲ停止スル

コトアルヘシ其ノ免許前ニ係ル場合亦

同シ

前二項ノ取消處分ヲ受ケタル者ト雖第

三條第一項ノ原因止ミタルトキ又ハ改

悛ノ情顯著ナルトキハ再免許ヲ與フル

コトヲ得

前三項ノ處分ハ內務大臣之ヲ行フ但シ

第二項ノ處分ヲ行フ場合及改悛ノ情顯

著ナル者ニ對シ前項ノ再免許ヲ與フル

場合ニ於テハ中央衛生會ノ審議ヲ經ル

コトヲ要ス

第十條 免許ヲ受ケスシテ助産ノ業ヲ爲

シタル者又ハ第四條乃至第七條ノ規定

ニ違反シタル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ

科料ニ處ス業務停止中ノ產師ニシテ助

産ノ業ヲ爲シタル者亦同シ

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

產婆規則ハ之ヲ廢止ス

本法施行前產婆名簿ニ登錄セラレタル者

ハ本法ニ依リ產師ノ免許ヲ受ケタル者ト

看做ス

本法施行前地方長官ヨリ業務ノ地域及期

限ヲ定メテ假ニ產婆ノ業ヲ免許セラレタ

ル者ハ本法施行後ト雖仍其ノ業務ヲ爲ス

コトヲ得且其ノ期限ハ申請ニ依リ之ヲ更

新スルコトヲ得

本法施行ノ際從前ノ規定ニ依リ產婆名簿

ニ登錄ヲ受クル資格ヲ有スル者及本法施

行後五箇年以内ニ從前ノ規定ニ依リ產婆

名簿ニ登錄ヲ受クル資格ヲ得タル者ハ第

助産師法案

助産師法

第一條 助産師トハ助産ヲ業トスル者ヲ謂フ

第二條 助産師タラムトスル者ハ二十年以上ノ女子ニシテ左ノ資格ヲ有シ内務大臣ノ免許ヲ受クルコトヲ要ス

一 高等女學校ノ卒業業者又ハ之ト同等以上ノ學力ヲ有スル者ニシテ内務大臣ノ指定シタル助産師學校ヲ卒業シタル者

二 外國ノ助産師學校ヲ卒業シ又ハ外國ニ於テ助産師ノ免許ヲ得タル者ニシテ命令ノ規定ニ該當スル者

三 助産師試驗ニ合格シタル者

助産師試驗ハ内務大臣之ヲ行フ

助産師試驗ニ關スル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第三條 聾者、啞者、盲者又ハ精神病者ニ對シテハ助産師ノ免許ヲ與フルヲ得ス

墮胎ノ罪其ノ他業務ニ關スル罪ヲ犯シ刑ニ處セラレタル者又ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者ニ對シテハ助産師ノ免許ヲ與ヘサルコトアルヘシ

第四條 助産師ハ妊婦、產婦、褥婦又ハ胎兒、生兒ニ異常アリト認ムルトキハ直ニ醫師ノ診療ヲ請ハシムヘシ自ラ其ノ處置ヲ爲スコトヲ得ス但シ臨時應急ノ處置ハ此ノ限ニ在ラス

第五條 助産師ハ妊婦、產婦、褥婦又ハ胎兒、生兒ニ對シ外科手術ヲ行ヒ產科器械ヲ用ヒ藥品ヲ授與シ又ハ之カ指示ヲ爲スコトヲ得ス但シ消毒ヲ行ヒ臍帶ヲ切り灌腸ヲ施スハ此ノ限ニ在ラス

助産師ニシテ命令ノ定ムル所ニ依リ特別ノ講習ヲ受ケ地方長官ノ認定ヲ得タル者ハ救急ノ手當トシテ助産ニ必要ナル皮下注射(強心劑、止血劑、陣痛促進劑ノ注射)、會陰縫合術、側方切開術及生兒假死蘇生劑注射ヲ施スコトヲ得

第六條 助産師ハ自ラ診療又ハ檢案セスシテ死産證書又ハ死胎檢案書ヲ交付スルコトヲ得ス

第七條 助産師ハ何等ノ方法ヲ以テスルヲ問ハス業務上技能、經歷又ハ命令ヲ以テ定ムル事項ノ廣告ヲ爲スコトヲ得ス

第八條 助産師ハ產簿ヲ備ヘ十箇年間之ヲ保存スヘシ

第九條 助産師ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ道府縣助産師會ヲ設立スヘシ

道府縣助産師會ハ日本助産師會ヲ設立スルコトヲ得

助産師ハ土地ノ狀況ニ依リ郡市區助産師會ヲ設立スルコトヲ得

助産師會ハ法人トス

助産師會ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ產事衛生ノ改良發達ヲ圖ルヲ以テ目的トス

助産師會ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ其ノ會員ヨリ徵收スヘキ收入ニ關シ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得

前各項ニ規定スルモノノ外助産師會ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十條 助産師第三條第一項ニ該當スルトキハ其ノ免許ヲ取消スヘシ

助産師墮胎ノ罪其ノ他業務ニ關スル罪ヲ犯シ刑ニ處セラレタルトキ又ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキハ免許ヲ取消シ又ハ期間ヲ定メテ業務ヲ停止スルコトアルヘシ其ノ免許前ニ係ル場合亦同シ

前二項ノ取消處分ヲ受ケタル者ト雖第三條第一項ノ原因止ミタルトキ又ハ改悛ノ情顯著ナルトキハ再免許ヲ與フルコトヲ得

前二項ノ處分ハ内務大臣之ヲ行フ但シ

第二項ノ處分ヲ行フ場合及改悛ノ情顯著ナル者ニ對シ前項ノ再免許ヲ與フル場合ニ於テハ中央衛生會ノ審議ヲ經ルコトヲ要ス

第十一條 免許ヲ受ケスシテ助産ノ業ヲ爲シタル者又ハ第四條乃至第八條ノ規定ニ違反シタル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス業務停止中ノ助産師ニシテ助産ノ業ヲ爲シタル者亦同シ

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

產婆規則ハ之ヲ廢止ス

本法施行前產婆名簿ニ登錄セラレタル者ハ本法ニ依リ助産師ノ免許ヲ受ケタル者ト看做ス

本法施行前地方長官ヨリ業務ノ地域及期限ヲ定メテ假ニ產婆ノ業ヲ免許セラレタル者ハ本法施行後ト雖仍其ノ業務ヲ爲スコトヲ得且其ノ期限ハ申請ニ依リ之ヲ更新スルコトヲ得

本法施行ノ際從前ノ規定ニ依リ產婆名簿ニ登錄ヲ受クル資格ヲ有スル者及本法施行後五箇年以内ニ從前ノ規定ニ依リ產婆名簿ニ登錄ヲ受クル資格ヲ得タル者ハ第二條ノ規定ニ拘ラス助産師ノ免許ヲ受クルコトヲ得

(土屋清三郎君登壇)

○土屋清三郎君 本案ハ產婆ノ教育ノ程度ヲ高メ、其身分職能ヲ法律ヲ定メ、其組合ヲ法人トシテ、團體的活動ニ依ッテ、產婆ヲ醫師ト相並ンデ國民保健ノ爲ニ活動サセヨウト云フノデアリマス、既ニ本案ハ前後三回本院ヲ通過シテ居ルノデアリマスガ、不幸ニシテ未ダ帝國議會ヲ通過スルニ至ラナイノデアリマス、此點ニ付テ私ハ此機會ニ特ニ政府致ス諸君ノ御注意ヲ願ヒタイノハ、本案ハ各派ノ提案デアリ、而シテ衆議院ニ議席ヲ有ツ諸君一人トシテ之ニ賛成シテ居ラナイ者ハナイノデアリマス、其結果既

ニ三四モ衆議院ヲ通過シタニモ拘ラス、貴族院ヲ通過スルニ至ラナイ原因ハ、政府ガ本案ニ對シテ時期尚早ノ故ヲ以テ同意ヲセラレナイカラデアリマス、是ハ吾々ノ甚ダ不滿トスル所デアリマシテ、御承知ノ通り國家ノ實力ガ國民ノ質ト數トニ依ッテ決定セラレルト云フコトハ論ヲ俟タナイ所デアリマス、世界大戰後歐洲諸國ハ此點ニ重キヲ置キマシテ、產兒制限ニ對スル宣傳ヲ嚴重ニ取締リ、產兒ノ保護獎勵ヲ國家ノ力ニ依ッテ努メルバカリデナク、妊婦並ニ小兒ノ保護ニ徹底的ノ施設ヲ致シテ居ルノデアリマス、特ニ妊婦ノ保護並ニ小兒ノ保護ハ、専ラ產婆ノ扱フ所デアリマシテ、此見地カラ大戰後產婆ノ教育ノ程度ヲ高メ、其學科ノ範圍ヲ擴大シ、且ツ產婆ヲ全國ニ分布スルガ爲ニ、及ビ產婆ヲ保護スルガ爲ニ、都會ニ於テハ開業ノ數ヲ制限シ、町村ニ對シテハ政府並ニ自治體ノ保護ニ依ッテ、限ナク之ヲ分布サセテ、國民ノ中一人モ妊婦トシテ產婆ノ診療ヲ受ケ得ナイ者ハナク、一人トシテ產婆ノ手ヲ借ラズシテ生ル、者ノナイヤウニ致シテ居ルノデアリマス、其結果日本ニ見ルヤウナ、月足ラズデ生ル、數ト云フモノハ非常ニ減ツタ、產褥熱デ死ヌ者モ非常ニ減ツタ、又日本ノ如ク國民ノ死亡ノ四分ノ一ガ一年以內ノ小兒デアルト云フガ如キ悲ムベキ現象ハ、是等ノ國ニ於テハ見ルコトガ出來ナイノデアリマス、吾々ハ是等ノ點カラ考ヘ、日本ノ現在ノ狀態カラ考ヘテ、此際是非共產婆ノ教育程度ヲ今一段ト高メテ、其教育ノ範圍ヲ擴大シテ、單ニ產婆ノ取扱ダケデナクシテ、之ニ依ッテ妊婦ノ妊娠ノ診斷ヲ十分ニシテ、分娩ノ際ニ產婆ノ爲メ死ヌ者ノナイヨウニシ、又其生レタル所ノ子供ニ對スル保護ヲ十分ニシテ、折角生レナガラ一年以內デ死亡スルト云フガ如キ、此悲シムベキ現象ヲ排除イテシマヒタイノデアリマス、殊ニ歐羅巴ニ於キマシテハ、產婆ノ課目ノ中

二七五

ニ新ニ整形外科ノ課目ト衛生學ノ課目、殊ニ榮養ニ關スル課目ヲ加ヘテ產婆ヲ教養致シマシタ結果、生レタ子供ニ對スル診斷ヲハッキリサセテ、生レタ場合ニ直セバ一生片輪デナクテ濟ム所ノ例ヘバ手ガ曲シタ、足ガ曲シタト云フガ如キ者ヲ早ク診斷シテ、醫師ノ手ニ掛ケテ、一生不幸デ其人ガ終ラズニ、完全ナル人間トシテ活動セルヤウニシタ如キ、孰レモ新シイ產婆ノ教育ノ結果トシテ、特色トシテ見ルコトガ出來ルノデアリマス、ノミナラズ產婆ヲ都會ニモ農村ニモ普及シテ、單ニ妊婦及ビ小兒ノ保護指導ニ當ラセルバカリデナク、總テノ家庭ニ產婆ヲ出入サセテ、產婆ヲシテ全國民ノ家庭衛生ノ指導者トサセマシタ結果、國民ノ衛生思想ト云フモノハ非常ニ發達致シマシテ、隨テ病氣ニ罹ル者ノ率モ非常ニ減ッテ參ッテ居ルノデアリマス、日本國民ガ如何ニ病氣ニ罹ル割合ガ多イカト云フコトハ、我國ト歐羅巴諸國トノ健康保險ノ患者ノ割合ヲ見テモ明白デアリマス、斯様ニ產婆ハ今日ハ單ナル才產ノ取扱者デナクシテ、醫師ト相並ンデ國民保健ノ第一線ニ立ツ所ノ重要ナ職務ニ當テ居ルノデアリマスカラ、ドウカ諸君ハ全部本案ニ賛成デアリマスカラ、此聲ヲ諸君ノ力ニ依ッテ十分政府ニ徹底サシテ、今回コソハ是非トモ帝國議會ヲ通過サセテ、立派ニ產師法ガ成立シテ、產婆ノ身分地位ヲ高メテ、其團體的活動ニ依ッテ國民保健ノ一大進展ヲ企圖スルコトガ出來ルヤウニ、一段ノ御同情ト御盡力ヲ仰ギマス(拍手)

上カラ出發シテ居ルノデアリマス、我國ノ醫學ハ歐米ヲ凌駕シテ居リマス、隨テ國民ノ衛生思想ハ幼稚デアリマス、隨テ衛生狀態ハ憂フベキ現象ヲ呈シテ居リマス、一二ノ例ヲ擧ゲマスレバ、百万ノ胎兒ノ出生スル外ニ、二十万ノ異常產ニ依ッテ死亡者ガアリマス、尙ホ二十万ノ幼兒ノ死亡ガアル、斯様ナ事ハ產婆ノ知識ノ向上ト、技術ノ發達ニ依リマシテ、多少トモ救ヒ得ルコトガ出來ルノデアリマス、又產婆ハ產科學ヲ基礎トシテ、神ノ如キ技術ヲ平産ニ向ッテ行フノデアリマスカラシテ、決シテ醫師ノ領域ヲ侵スモノデナク、是ハドノ方面ニモ故障ガ起ルノデアリマセヌ、殊ニ今回ノ運動ハ極メテ眞實ニ、眞面目ニヤッテ居ルノデアリマス、殊ニ繼續的ニヤッテ居ル案ノ通過ガ出來、貴族院モ無事ノ通過ガ出來マシテ、政府ノ同意ヲ得ルコトヲ、特ニ私ハ此席ニ於テ御願致シマス(拍手)

ノ認定ヲ得タル者ハ救急ノ手當トシテ助産ニ必要ナル皮下注射(強心劑、止血劑、陣痛促進劑ノ注射)、會陰縫合術、側方切開術及生兒假死蘇生劑注射ヲ施スコトヲ得、是ダケノ問題デアリマス、或人ハ此問題ニ關シマシテ、醫師ノ限界ヲ超ユルモノデアルト云フ議論ヲ言フ人ガアリマス、或ハ皮下注射ノ如キハ緊急避難ニ類スベキモノデアルカラ、特ニ明文ヲ以テ規定スル必要ハナイト云フコトヲ言ウテ居リマス、併ナガラ今土屋清三郎君ガ申サレマシタ通り、獨逸ニ於キマシテハ、產師法中ニ於キマシテ、實ニ整形外科ノ一項ヲ差加ヘテ居ル位ナ狀況デアリマス、隨テ會陰縫合術デアルトカ、或ハ側方切開術ノ如キ、異常出產ノ場合ニ處スル簡單ナル手術ノ如キハ、容易ニ醫者ノ手ヲ俟タズシテ爲シ得ルモノデハナイカト信ズル者デアリマス、更ニ皮下注射ノ如キ緊急避難ノ行爲ナルガ故ニ、特ニ法律ヲ以テ規定スル必要ナシト云フ意見ニ對シマシテハ、例ヘバ昨年ノ議會ニ於キマシテ私ガ申上ゲマシタ通り、群馬縣ニ於ケル事例ハ、最モ其顯著ナル事柄デアリマス、而シテ地方裁判所或ハ控訴院ニ於キマシテモ、果シテ是ガ緊急避難ナルヤ否ヤト云フコトヲ決定スルコトガ出來ズ、遂ニ大審院ノ判決ヲ俟ッテ初メテ無罪ノ確定ヲ得タノデアリマス、斯ウ云フヤウナコトハ、即チ明文ニ記載サレザルガ故ニ、產婆ハ不安ノ中ニ仕事ヲシテ居ルト見ナケレバナリマセヌ、故ニ前ニ申シマシタ理由、即チ明文ヲ以テ規定スル必要ナシト云フ理由ハ、此點ニ於テ其理由ナキコトガ、之ヲ證セラレルコトデアラウト思フノデアリマス、斯様ニ今日ノ產師法ガ不十分デアリ、又人命問題ニ關シマスルガ故ニ、敢テ此案ヲ提出致シマシテ、諸君ノ御賛同ヲ得ントスル次第デゴザリマス、其他ノ理由ハ提案理由書ニ審カデアリマスカラ、演說ヲ省略致シマシテ、

之ヲ速記録ニ留ムルノ御承認ヲ得マシテ、之ヲ省略ラ致シマス、何卒十分御審査ノ上協賛アラント切望シテ已マナイノデアリマス(拍手)

○議長(濱田國松君) 質疑ノ通告ハアリマセヌ

○青木雷三郎君 日程第十五乃至第十七ノ三案ハ、一括シテ田中祐四郎君外二名提出、衛生組合法案外四件委員ニ併セ付託セラレシコトヲ望ミマス

○議長(濱田國松君) 青木君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(濱田國松君) 御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタリ、日程第十八乃至第二十八同種議案ナルニ依リ、一括議題トナスニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(濱田國松君) 御異議ナシト認メマス、仍テ日程第十八、度量衡法中改正法律案、日程第十九、度量衡法中改正法律案、右三案ヲ一括シテ第一讀會ヲ開キマス、順次提出者ノ趣旨辯明ヲ許シマス、日程第十八提出者福井甚三君

第十八 度量衡法中改正法律案(東武君外三名提出) 第一讀會

第十九 度量衡法中改正法律案(荒川五郎君外十三名提出) 第一讀會

第二十 度量衡法中改正法律案(山道襄一君外二名提出) 第一讀會

度量衡法中改正法律案

度量衡法中左ノ通改正ス

第一條 度量衡ハ尺貫法ヲ本位トシ特ニ便宜アル場合ハメートル法ニ依ルコトヲ得

尺貫法ニ依ル度量ハ尺、衡ハ貫ヲ以テ

野方次郎君登壇

○野方次郎君 只今土屋君ニ依ッテ大體ヲ述ベラレテ居リマス、私ハ簡單ニ補足致シマス、產婆ノ現代ハ洵ニ不合理デアリマスカラシテ、教育ノ程度ヲ高メ、社會上ノ地位ヲ進メタイト云フノハ、國民保健衛生

野中徹也君登壇

○野中徹也君 本案ハ今回ニテ三回本議場ニ提出セラレタモノデアリマスカラ、而シテ其時折提案ノ理由ヲ説明シテ居リマスルガ故ニ、諸君ニ於カレマシテハ十分熟知ノ事實デアルト信ジマス、隨テソレ等ニ關スル提案ノ理由ハ申上ゲマセヌ、要スルニ私共ノ提出致シマシタ助産師法案ハ去ル六十五帝國議會ニ於キマシテ、產師法案委員會ニ於テ作成セラレマシタ其案ト同一ノモノデアリマス、唯其案ニ附加フルノニ第五條第二項ノ規定ヲ附加シタニ過ギマセヌ、隨テ私ハ何ガ故ニ第五條第二項ノ規定ヲ附加シタカト云フ理由ノミヲ申上ゲタイト考ヘマス、或ハ此點ニ關シマシテ、此第五條第二項ノ規定、即チ「助産師ニシテ命令ノ定ムル所ニ依リ特別ノ講習ヲ受ケ地方長官

ノ認定ヲ得タル者ハ救急ノ手當トシテ助産ニ必要ナル皮下注射(強心劑、止血劑、陣痛促進劑ノ注射)、會陰縫合術、側方切開術及生兒假死蘇生劑注射ヲ施スコトヲ得、是ダケノ問題デアリマス、或人ハ此問題ニ關シマシテ、醫師ノ限界ヲ超ユルモノデアルト云フ議論ヲ言フ人ガアリマス、或ハ皮下注射ノ如キハ緊急避難ニ類スベキモノデアルカラ、特ニ明文ヲ以テ規定スル必要ハナイト云フコトヲ言ウテ居リマス、併ナガラ今土屋清三郎君ガ申サレマシタ通り、獨逸ニ於キマシテハ、產師法中ニ於キマシテ、實ニ整形外科ノ一項ヲ差加ヘテ居ル位ナ狀況デアリマス、隨テ會陰縫合術デアルトカ、或ハ側方切開術ノ如キ、異常出產ノ場合ニ處スル簡單ナル手術ノ如キハ、容易ニ醫者ノ手ヲ俟タズシテ爲シ得ルモノデハナイカト信ズル者デアリマス、更ニ皮下注射ノ如キ緊急避難ノ行爲ナルガ故ニ、特ニ法律ヲ以テ規定スル必要ナシト云フ意見ニ對シマシテハ、例ヘバ昨年ノ議會ニ於キマシテ私ガ申上ゲマシタ通り、群馬縣ニ於ケル事例ハ、最モ其顯著ナル事柄デアリマス、而シテ地方裁判所或ハ控訴院ニ於キマシテモ、果シテ是ガ緊急避難ナルヤ否ヤト云フコトヲ決定スルコトガ出來ズ、遂ニ大審院ノ判決ヲ俟ッテ初メテ無罪ノ確定ヲ得タノデアリマス、斯ウ云フヤウナコトハ、即チ明文ニ記載サレザルガ故ニ、產婆ハ不安ノ中ニ仕事ヲシテ居ルト見ナケレバナリマセヌ、故ニ前ニ申シマシタ理由、即チ明文ヲ以テ規定スル必要ナシト云フ理由ハ、此點ニ於テ其理由ナキコトガ、之ヲ證セラレルコトデアラウト思フノデアリマス、斯様ニ今日ノ產師法ガ不十分デアリ、又人命問題ニ關シマスルガ故ニ、敢テ此案ヲ提出致シマシテ、諸君ノ御賛同ヲ得ントスル次第デゴザリマス、其他ノ理由ハ提案理由書ニ審カデアリマスカラ、演說ヲ省略致シマシテ、

之ヲ速記録ニ留ムルノ御承認ヲ得マシテ、之ヲ省略ラ致シマス、何卒十分御審査ノ上協賛アラント切望シテ已マナイノデアリマス(拍手)

○議長(濱田國松君) 質疑ノ通告ハアリマセヌ

○青木雷三郎君 日程第十五乃至第十七ノ三案ハ、一括シテ田中祐四郎君外二名提出、衛生組合法案外四件委員ニ併セ付託セラレシコトヲ望ミマス

○議長(濱田國松君) 青木君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(濱田國松君) 御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタリ、日程第十八乃至第二十八同種議案ナルニ依リ、一括議題トナスニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(濱田國松君) 御異議ナシト認メマス、仍テ日程第十八、度量衡法中改正法律案、日程第十九、度量衡法中改正法律案、右三案ヲ一括シテ第一讀會ヲ開キマス、順次提出者ノ趣旨辯明ヲ許シマス、日程第十八提出者福井甚三君

第十八 度量衡法中改正法律案(東武君外三名提出) 第一讀會

第十九 度量衡法中改正法律案(荒川五郎君外十三名提出) 第一讀會

第二十 度量衡法中改正法律案(山道襄一君外二名提出) 第一讀會

度量衡法中改正法律案

度量衡法中左ノ通改正ス

第一條 度量衡ハ尺貫法ヲ本位トシ特ニ便宜アル場合ハメートル法ニ依ルコトヲ得

尺貫法ニ依ル度量ハ尺、衡ハ貫ヲ以テ

基本トシメートル法ニ依ル度量ハメートル、衡ハキログラムヲ以テ基本トス

第二條 尺ハメートルノ三十三分ノ十、貫ハキログラムノ四分ノ十五トシメートルハ融解シツツアル純粹ノ水ノ氷ノ溫度ニ於ケル國際メートル原器ノ示ス所ノ長、キログラムハ國際キログラム原器ノ質量トス

メートルハメートル條約ニ依リ帝國ニ交付セラレタルメートル原器ニ依リ、キログラムハメートル條約ニ依リ帝國ニ交付セラレタルキログラム原器ニ依リ之ヲ現示ス

第三條 第三條ノ二トシ同條第一項中「度量衡」ヲ「メートル法ニ依ル度量衡」ニ改メ同條第二項ヲ削ル

第三條 尺貫法ニ依ル度量衡ノ名稱命位ヲ定ムルコト左ノ如シ

- 度 尺ノ一萬分ノ一
- 厘 尺ノ千分ノ一
- 分 尺ノ百分ノ一
- 寸 尺ノ十分ノ一
- 尺 十尺
- 間 六尺
- 町 三百六十尺
- 里 一萬二千九百六十尺
- 地積 勻 歩ノ百分ノ一
- 合 歩ノ十分ノ一
- 歩又ハ坪 三十六平方尺
- 畝 三十歩
- 段 三百歩
- 町 三千歩
- 量 勻 升ノ百分ノ一
- 合 升ノ十分ノ一
- 升 六萬四千八百二十七立方分

斗 十升
石 百升

衡 毛 貫ノ百萬分ノ一
厘 貫ノ十萬分ノ一
分 貫ノ一萬分ノ一
釐 貫ノ千分ノ一

斤 百六十匁
第三條ノ三 前二條ニ規定スル度量衡又ハ其ノ倍數若ハ分數ニ依ル度量衡ニシテ特殊ノ場合ニ用ウルモノノ名稱命位ニ關シテハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

前二條ニ規定セサル度量衡ニシテ從來慣用セルモノ又ハ特殊ノ場合ニ用ウルモノノ名稱命位ニ關シテハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第五條 第一項中「第二條」ヲ「第二條第二項」ニ、同條中「農商務大臣」ヲ「商工大臣」ニ改ム

第十一條 中「破毀シ」ヲ「領置シ」ニ改ム
附則 (大正十年法律第七十一號) 第二項ヲ削リ第三項中「第三條第一項ノ規定又ハ同條第二項」ヲ「第三條及第三條ノ二ノ規定又ハ第三條ノ三」ニ改ム

附則 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

度量衡法中改正法律案
第一條 度量衡ハ尺貫法ヲ本位トシ特ニ便宜アル場合ハメートル法ニ依ルコトヲ得

尺貫法ニ依ル度量ハ尺、衡ハ貫ヲ以テ基本トシメートル法ニ依ル度量ハメートル、衡ハキログラムヲ以テ基本トス
第二條 尺ハメートルノ三十三分ノ十、貫ハキログラムノ四分ノ十五トシメートルハ融解シツツアル純粹ノ水ノ氷ノ

溫度ニ於ケル國際メートル原器ノ示ス所ノ長、キログラムハ國際キログラム原器ノ質量トス

メートルハメートル條約ニ依リ帝國ニ交付セラレタルメートル原器ニ依リ、キログラムハメートル條約ニ依リ帝國ニ交付セラレタルキログラム原器ニ依リ之ヲ現示ス

第三條 第三條ノ二トシ同條第一項中「度量衡」ヲ「メートル法ニ依ル度量衡」ニ改メ同條第二項ヲ削ル

第三條 尺貫法ニ依ル度量衡ノ名稱命位ヲ定ムルコト左ノ如シ

- 度 尺ノ一萬分ノ一
- 厘 尺ノ千分ノ一
- 分 尺ノ百分ノ一
- 寸 尺ノ十分ノ一
- 尺 十尺
- 間 六尺
- 町 三百六十尺
- 里 一萬二千九百六十尺
- 地積 勻 歩ノ百分ノ一
- 合 歩ノ十分ノ一
- 歩又ハ坪 三十六平方尺
- 畝 三十歩
- 段 三百歩
- 町 三千歩
- 量 勻 升ノ百分ノ一
- 合 升ノ十分ノ一
- 升 六萬四千八百二十七立方分
- 斗 十升
- 石 百升
- 衡 毛 貫ノ百萬分ノ一
- 厘 貫ノ十萬分ノ一

分 貫ノ一萬分ノ一
釐 貫ノ千分ノ一

斤 百六十匁
第三條ノ三 前二條ニ規定スル度量衡又ハ其ノ倍數若ハ分數ニ依ル度量衡ニシテ特殊ノ場合ニ用ウルモノノ名稱命位ニ關シテハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

前二條ニ規定セサル度量衡ニシテ從來慣用セルモノ又ハ特殊ノ場合ニ用ウルモノノ名稱命位ニ關シテハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第五條 第一項中「第二條」ヲ「第二條第二項」ニ、同條中「農商務大臣」ヲ「商工大臣」ニ改ム

第十一條 中「破毀シ」ヲ「領置シ」ニ改ム
附則 (大正十年法律第七十一號) 第二項ヲ削リ第三項中「第三條第一項ノ規定又ハ同條第二項」ヲ「第三條及第三條ノ二ノ規定又ハ第三條ノ三」ニ改ム

附則 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

度量衡法中改正法律案
第一條 度量衡ハ尺貫法ヲ本位トシ特ニ便宜アル場合ハメートル法ニ依ルコトヲ得

尺貫法ニ依ル度量ハ尺、衡ハ貫ヲ以テ基本トシメートル法ニ依ル度量ハメートル、衡ハキログラムヲ以テ基本トス
第二條 尺ハメートルノ三十三分ノ十、貫ハキログラムノ四分ノ十五トシメートルハ融解シツツアル純粹ノ水ノ氷ノ溫度ニ於ケル國際メートル原器ノ示ス所ノ長、キログラムハ國際キログラム原器ノ質量トス
メートルハメートル條約ニ依リ帝國ニ交付セラレタルメートル原器ニ依リ、

キログラムハメートル條約ニ依リ帝國ニ交付セラレタルキログラム原器ニ依リテ示ス

第三條第三條ノ二トシ同條第一項中「度量衡」ヲ「メートル法ニ依ル度量衡」ニ改メ同條第二項ヲ削ル

第三條 尺貫法ニ依ル度量衡ノ名稱命位ヲ定ムルコト左ノ如シ

度 尺ノ一萬分ノ一
厘 尺ノ千分ノ一
分 尺ノ百分ノ一
寸 尺ノ十分ノ一

丈 十尺
間 六尺
町 三百六十尺
里 一萬二千九百六十尺

地積 歩ノ百分ノ一
合 歩ノ十分ノ一
步 又ハ坪 三十六平方尺
畝 三十步
段 三百步
町 三千步

量 升ノ百分ノ一
合 升ノ十分ノ一
升 六萬四千八百二十七立方分
斗 十升
石 百升

衡 毛 貫ノ百萬分ノ一
厘 貫ノ十萬分ノ一
分 貫ノ一萬分ノ一
釐 貫ノ千分ノ一
貫 百六十釐

第三條ノ三 前二條ニ規定スル度量衡又

ハ其ノ倍數若ハ分數ニ依ル度量衡ニシテ特殊ノ場合ニ用ウルモノノ名稱命位ニ關シテハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
前二條ニ規定セサル度量衡ニシテ從來慣用セルモノ又ハ特殊ノ場合ニ用ウルモノノ名稱命位ニ關シテハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第五條第一項中「第二條」ヲ「第二條第二項」ニ、同條中「農商務大臣」ヲ「農工大臣」ニ改ム
第十一條中「破毀シ」ヲ「領置シ」ニ改ム

附則(大正十年法律第七十一號)第二項ヲ削リ第三項中「第三條第一項ノ規定又ハ同條第二項」ヲ「第三條及第三條ノ二ノ規定又ハ第三條ノ三」ニ改ム

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

(福井甚三君登壇)

○福井甚三君 只今上程サレマシタル度量衡法改正法律案提出ノ理由ヲ簡單ニ申述ベマシテ、諸君ノ御賛成ヲ仰ギタイと思ヒマス、現行ノ度量衡法ハ、大正十年即チ第四十四帝國議會ニ於テ審議セラレマシテ、其結果大正十年四月十一日法律第七十一號ヲ以テ「メートル法」專用ノ度量衡法ヲ公布サレタリマス、其執行期ヲ事情ニ應ジテ十年若クハ二十年ノ猶豫期間ヲ定メラレマシテ、昭和九年七月ニ至ッテ全部「メートル法」専用タルコトニ決定セラレタリマス、然レ所此第一期ノ猶豫期間ノ昨年ノ七月一日ガ、「メートル法」専用ノ第一期ノ強制期ニ相當致シタルデアリマス、此法律ヲ實施スルニ付テハ、文部省ニ於テガレマシテモ、商工省ニ於テモ、國民ノ理解ト國民ノ教育ニ俟タナケレバナラヌト云フコトデ、年來極力各方面ニ努力サレマシテ、今日「メートル法」ヲ國民ノ教育ニ施サレタリマス、併ナガラズ様ニ

努力ヲ致サレマシテモ、此度量衡法ト云フモノハ、我が國民ノ慣習上、中々容易ニ行ハレヌト云フコトヲ認メラレマシテ、昨年齋藤內閣ニ依ッテ、初メテ法律ノ第一ノ期間ヲ五箇年間延長スルコト云フガ如キ、其法律ニ變革ヲ與ヘラレタリマス、斯様ナ事實ヲ以テマシテモ、此現在ノ「メートル法」專用ハ、我が國民性ニ適セザルモノト齋藤內閣ハ認メテ居ルノデアリマス、而モ此尺貫法ハ古來我國ニ慣用セラレテ、光輝アル歴史ト特色ヲ有シタ文化ニ基調セラレテ居ルモノデアリマス、一朝ニ此一ツノ法律ヲ以テ徹底底ニヤラウト申シマシタ所ガ、絕對出來得ナイノデアリマス、一番困リマスノハ「メートル法」ヲヤリマス、又建物ノ臺帳モ直サナケレバナラヌト云フ所ノ、經濟的ニ伴フ大ナル難所ガアルノデアリマス、斯ウ云フコトガ「メートル法」ニ訂正致シマス、莫大ナル金ガ掛ッテ、現在ノ我國ト致シマシテハ、經濟上許ス能ハザル所ノ現狀デアリマス、尙又營業ヲスル者ニ對シマシテハ、第一困リマスルノハ、日本特有ノ建築ヲ致シテ居ル大工デアリマス、足袋職工デアリマス、又農村ノ生活ヲ致シテ居リマス農村ノ自治體ニ於キマシテモ「メートル法」ヲ專用ト云フコトハ、洵ニ迷惑ヲ感ジテ居リマシテ、家庭ニ於キマシテモ、年寄ト若イ者トガ日々思想ノ衝突ヲ致シテ、國民ノ生活ニ大障礙ヲ來シテ居ルコト云フコトハ、事實否定ノ出來ナイ現狀デアリマス、斯様ナ「メートル法」デアリマスルガ、併シ又一面カラ考ヘマスト云フト、專門ノ技術家方面、或ハ學界ニ居ル所ノ階級ト致シマシテハ、此「メートル法」ガ洵ニ便利デアルカラ、之ヲ專用シナケレバナラヌト主張致シテ居ルノデアアルコトハ自分モ認メテ居リマス、併ナガ

ラ多數ノ國民性カラ申シマシタナラバ、古來ヨリ言傳ハッタ、使用シ來ッタル所ノ數量的ノ觀念ト云フ考カラ致シマシタナラバ、「メートル法」ト尺貫法ト自由ニシテ相併用スルコト云フコトガ、最モ我國ノ現狀ト致シマシテハ適シタ法律デアルト、固ク信ジテ疑ハナイノデアリマス、此見地カラ致シマシテ、一昨年ノ六十五議會ニ提案ヲ致シマシタ所ガ、滿場一致ヲ以テ通過ヲ致シ、貴族院ニ於テ審議セラレマシテ、貴族院ニ於テ大大的ノ問題トナッテ、政府當局ニ於ケレマシテモ、十分調査スル必要アリト認識セラレマシテ、此法案ノ實現ヲスルコトガ近キ中ニ相迫ッテ居ル實情デアリマス、此實際ニ鑑ミマシタ結果ガ、今日本案ヲ提案致シマシテ、滿場ノ御賛成ヲ得マシテ、此法案ガ發布セラレヌコトヲ切望スル次第デアリマス、爾ガ故ニ、今日本案ヲ提出致シタ理由ヲ、篤ト御同情ノ上御賛成アラヌコトヲ御願致シテ、説明ト致ス次第デアリマス(拍手)

○議長(濱田國松君) 日程第十九、提出者荒川五郎君

(荒川五郎君登壇)

○荒川五郎君 度量衡改正案ハ、只今福井君ヨリ提案理由ノ説明ガゴザイマシタカラ、私ハ其餘ニ於テ極メテ簡單ニ一言致シタイと思ヒマス、諸君、一時朝野ヲ風靡シテ盛デアリマシタ、彼ノ國際主義世界ノ思想ニ累ヒセラレタ當時ノ我國ハ、一モ二モ歐米追隨、大勢順應ト云フコトガ一般ノ風ヲ成シテ、我ト我が自國ヲ忘レテ、我ヲ見失ハント致シマシタ、丁度其際ニ此度量衡ノ統一問題モ其組上ニ上リマシテ、我國古來久シキニ互ッテ、國民生活ノ様式ニ自然ニ馴致融合シテ、或ハ之ヲ無聲ノ國語ト云フテモ宜イ程ニ習慣附ケラレタ其度量衡尺貫法ヲ、恰モ弊履ヲ棄テ去ルガ如ク、無難作ニ之ヲ變更シテ、實ニ國民性ヲ養ヒ、日本精神ヲ培フ資料ヲ破却シテ願ミナイト云フテモ

宜イ程ノ形デアッタノデアリマシテ、實ニ無謀ト言ヒマセウカ、無思慮、亂暴ト言ヒマセウカ、全ク盲目の國際屈從主義ノ追隨ヲ遺憾ナク表示シタノデアリマスガ、幸ニマダ實施準備ノ期間中デアリマスカララダシモ、萬一若モ是ガ強制實施ニナッテ居タナラバ、如何ニ世界ノ物産ヒトナッテデアリマセウカ、我が複雜ナル制度ヲ整理シテ、世界のニ統一シテ、海外貿易ノ利用圓滑ヲ圖ルト云フ趣旨ニ出テ改正シタモノガ、豫期シタ英國ヤ米國ヤ加奈陀等、外國ニ交渉最モ多キ是等ノ諸國ハ、此「メートル」法ヲ採用シナイノデアリマス、其他支那、印度等、我が對外關係ノ最モ密接ナ諸國ニモ通用シナイノデアリマス、是デハ改正ノ目的ハ無クナツテデアリマス、サウシテ我國内デハ大困難、大失費、大犧牲ヲ拂ウテ、恰モ國民ノ手足ヲ切ツテ之ヲ「メートル」ニ切揃ヘルト云フ如キ荒唐治ヲシナガラ、對外的ニハ、全身のニ何等效果ガナイノミカ、却テ煩雜ヲ加ヘ、混亂ヲ致スノ損失アルノミデアリマス、今ニシテ思ヘバ、實ニ肝膽ノ戰慄ヲ覺エルノデアリマス、勿論此改正案ガ議會ニ出タ當時、私共ハ之ニ反對シタノデアリマス、反對シタノデアリマスガ、遺憾ナガラ力足ラズ、當時滔々タル盲目の國際主義ノ大勢ヲ阻止スルコトガ出來ナカッタコトハ、洵ニ慙愧ニ存ズル次第デアリマス、然ルニ此國際主義ニ迷ヒ込シテ我國モ、近年國內ノ風潮漸ク我ニ目覺メテ、自ラ我ト我が日本ヲ發見シタカノヤウニ、我ニ反シテ、諸般ノ事項ヲ自主的ニ檢討スルヤウニナリマシテ、此問題ノ如キモ、今ヤ天下ノ耳目ヲ動カシツ、アルコトハ、セメテモノ仕合セデアリマス、仍テ私共昨年ノ議會ニ此改正案ヲ提出シテ、幸ヒ衆議院ハ通過シマシタ、貴族院モ亦同趣旨ノ建議案ヲ大多數ヲ以テ通過シマシタコトハ、一般ノ機運ガ我ニ懸ツテ表徵トシテ、國家ノ爲ニ喜

ブ所デアリマス、今ヤ本法發布サレテ幾年所ヲ經テ、實施ニ進ンダ方面モ少クアリマセウカラ、之ヲ復舊スルニハ相當ノ煩累ハ已ムヲ得マセウガ、併シ之ヲ強制實施シテ其非ヲ實ク混雜、困難、大失費ニ較ブレバ、眞ニ面上ノ疣贅ヲ取ルノ苦痛ニモ及バザルコト遠ク次第デ、輕重緩急自ラ同日ノ論デハアリマセウ、況ヤ本改正案ハ、從來ノ尺貫法ニ復スルト共ニ、「メートル」法ニ依ルヲ便利トスルモノハ之ヲ用ユルコトヲ得ルト云フ、併行主義ノ建前デアリマスカラ、サシテ困難支障ハナイト存ジマス、何卒諸君ノ御同情御賛成ヲ希望致シマス(拍手)

○議長(濱田國松君) 日程第二十、提出者岸衛君

(岸衛君登壇)

○岸衛君 本案ハ我が國民同盟ニ於キマシテハ、山道裏一君ガ最モ熱心ニ主張セラレテ居ルノデアリマスルガ、其内容ハ東君、荒川君御提出ノ案ト全然同一デアリマスルカラ、私ハ重複ヲ避ケル爲ニ一切ノ説明ヲ止メマス、唯本案ノ骨子ハ、從來ノ尺貫法ト「メートル」法ノ併用ニアルノデアリマシテ、丁度家庭ニ於キマシテ洋服ト和服、洋食ト和食、最近ニ於キマシテハ「パパ」「ママ」(笑聲)御父サン御母サン、斯ウ云フヤウナコトガ併用セラレテ居ルト全然同ジデアリマス、之ヲドテラカ一方ニ致シマスルナラバ、ソコニ家庭爭議ガ起ルヤウナコトニナリマス(笑聲)隨テサウ云フ意味合ニ於キマシテモ、亦現時ノ日本國內ノ實情ニ即シマシテモ、此併行案ハ最モ理想的ナル案デアルト確信ヲスルノデアリマス(拍手)而シテ本案ハ政民兩院一致ノ聲デアリマシテ、謂ハバ全院一致ノ聲デアリマシテ、輿論デアルト言ツテモ差支ナイト存ジマスルガ故ニ、何卒此場合速ニ滿場ノ御協賛アラントト幾重ニモ懇願シ奉リマス(拍手)

○議長(濱田國松君) 質疑ノ通告ハアリマ

セヌ

○青木雷三郎君 日程第十八乃至第二十ノ三案ヲ一括シテ議長指名、九名ノ委員ニ付託セラレンコトヲ望ミマス

○議長(濱田國松君) 青木君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

(異議ナシト呼フ者アリ)

○議長(濱田國松君) 御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ、是ニテ本日ノ議事日程ハ議了致シマシタ、次會ノ議事日程ハ公報ヲ以テ御通知致シマス、本日は是ニテ散會致シマス

午後二時四十四分散會

(野中徹也君演說參照)

助産師法案理由書

本法案ノ骨子ハ現在ノ產婆ヲ一段ト向上セシメ產科醫ニ準ズル程度ノモノトシ舊幕時代ヨリノ遺物デアアル產婆ナル名稱ヲ廢シテ之ヲ助産師ト改稱シ助産業權ヲ擴充シテ救急處置トシテ事實助産ニ必要缺クベカラザル皮下注射竝ニ會陰縫合術及生兒假死蘇生劑注射等ハ助産師ニ於テ爲シ得ルヤウニシ眞ニ助産ノ職責ヲ完ウセシメタイト言フニアルノデアリマス現在ノ「產婆規則」ハ明治三十二年ノ制定ニ係ルモノデ只往時ノ所謂「とりあげ婆」ナルモノヲ對象トシテ立法セラレタルモノデアリマス爾來三十有餘年ヲ經タル今日醫術ハ驚クベキ進步ヲ爲シ醫學ノ一等國ヲ矜リツツアル我が日本ガ三十有餘年前ノ「產婆規則」ヲ以テ今日其ノ向上進步セル助産業務取締ニ適用シテ居ルノデアアルカラ其處ニ幾多ノ不備缺陷ノアルコトハ寧ろ當然ト言ツテ宜イ位デアリマス第一ハ其ノ名稱デアリマス產婆ト謂フハ甚ダ不適當ニシテ本來「產」ナル文字ハ自動詞デアツテ「產ム婆」デハ甚ダ不合理ト言ハネバナラヌ今日長クモ宮中ニ於カセラレテモ助産ノ仕事何々、助産婦何ノ某ト言フ御言

葉ヲ御使用ノ由拜聞スル且ツ又一般ノ產婆自身モ產婆ナル名稱ヲ嫌ウテ助産婦、助産師ト言フガ如キヲ希望シテ既ニ表看板其ノ他ニ使用シ居ル現狀デアリマス故ニ其ノ職責ノ本質ヨリ見テ之ヲ助産師ト改稱スルコトガ最モ適當デアリマス

第二ハ助産業ノ擴充デアリマス凡ソ出産ハ人生最大ノ事象デアリ之ガ助産ノ適否ハ直ニ母兒兩體ノ生命ニ關スルコトデアリマス而モ救急ノ手當ヲ要スル助産ノ職責ニ對シテ現行法規ハ甚ダ之ヲ輕視シ居ル憾ミガアル即チ「產婆規則」第七條ニ於テ「產婆ハ妊婦產婦褥婦又ハ胎兒生兒ニ異常アリト認ムルトキハ醫師ノ診療ヲ請ハシムヘシ自ラ其ノ處置ヲ爲スコトヲ得ス但シ臨時救急ノ手當ハ此ノ限ニ在ラス」ト規定シテ產婆ハ唯正規產ノミ取扱ヒ異常產ハ一切之ヲ專門產科醫ニ委スルコトナッテ居ル併シナガラ元來產ナルモノハ特殊病者ノ外正規產ト異常產ト判然ト豫知セラレベキモノニ非ズ產婆ガ正當妊娠ニシテ正規產ナリト診察豫期セルモノガ俄ニ異常產ニ急變スル事頗ル多ク其ノ場合產婆ハ法規ノ不備ナルガ爲ニ母兒兩體ノ生命ニ關スル重大危急ヲ拱手傍觀スルヲ餘儀ナクサレ實ニ人道ニ忍ブベカラザル立場ニ置カルコトトナル同條但書ニテ臨時救急ノ手當ヲ爲スコトアルモノ元來第八條ニ於テ「產婆ハ妊婦產婦褥婦又ハ胎兒生兒ニ對シテ外科手術ヲ行ヒ產科器械ヲ用キ藥品ヲ投與シ又ハ之カ指示ヲ爲スコトヲ得ス」ト規定シアリ但シ消毒ヲ行ヒ臍帶ヲ切り灌腸ヲ施スノ類ハ此ノ限ニ在ラス」トアル爲產婆トシテハ唯消毒、臍帶切斷、灌腸器具類ノ用意アルノミニテ他ハ全ク準備致シ居ラズ稀ニ用意周到ナル產婆アリテ臨時救急ノ手當ヲ爲シ得ルダケノ準備アリテ其ノ處置ヲ爲サンカ第三者ヨリ告發サルレバ醫師法ニ牴觸スル所爲ナリトシテ同直ノ取調ヲ受ケ法規ノ不備ナル所ヨリ其ノ裁判モ一審二審各、其

ノ解釋ヲ異ニシ昭和九年三月三十一日漸ク大審院判決ニ依リテ之ガ無罪トナリタル判例アル程ニテ斯ノ如ク嚴重ナル取調ヲ受ケ法廷ノ係争ヲ要スル幾多ノ前例ヨリ產婆トシテハ世人ノ信望ヲ失墜スルコト甚大ナルヲ惧レ此ノ救急手當ヲ敢テ爲スダケノ果斷力ヲ有スル者ハ皆無ト謂フベク全ク人道上ヨリ見テ看過スベカラザル狀況ニアリマス而モ產ニ於ケル救急處置ハ之ハ專門產科醫ノ手ニ俟ツノ餘裕ナキ火急迅速ヲ要スルモノデアアル隨ツテ專門產科醫ノ立會ツタ時ハ既ニ手後レトナリ取返シノ付カヌ悲慘事ヲ惹起スルノ例ハ田舎ノ如キ專門產科醫ヲ呼寄スルニ數時間ヲ要スル場所ニ於テハ枚舉ニ追アラズ都會地ニ於テスラ吾人ハ幾多ノ斯カル事例ヲ見聞スル所デアリマス免角法律ハ明ナルヲ良シトス臨時救急處置ハ法律用語ノ所謂緊急避難ニモ鈎合フベキ事柄デアアルカラ之ヲ本法案第五條第二項ニ「助産師ニシテ命令ノ定ムル所ニ依リ特別ノ講習ヲ受ケ地方長官ノ認定ヲ得タル者ハ救急ノ手當トシテ助産ニ必要ナル皮下注射（強心劑、止血劑、陣痛促進劑ノ注射）、會陰縫合術、側方切開術及生兒假死蘇生劑注射ヲ施スコトヲ得」ト明ニ之ヲ認メテ助産業務ノ權限ヲ擴張シタノデアアル現行法規ニ於テハ之ガ曖昧ナル爲產婆ハ人道上看ルニ見兼ネテ應急處置ヲ執ルヤ其ノ產婆ハ之ヲ公ニスルコトヲセヌ祕密ニ行ハレテ居ルコト亦多ク隨ツテ其ノ弊害モ多イコトニ想到スレバ法律上明ニ之ヲ許容スルコトガ必要デアアルハ論ヲ俟タナイ之ニ對シ一部論者ハ醫師ノ職業範圍ヲ侵蝕スルモノデアアルトカ或ハ注射ヲ濫用スル憂ヒアリトシテ反對スル者アルモ之ハ醫師ノ來ル迄ノ救急處置ニシテ醫療行為ニ非ズ寧ロ醫師トシテモ助産師ノ手ニシテ救急手當、救急處置ノ施サレルコトハ自己ノ臨床スル場合其ノ責任ガ輕減セラレルコト故之ヲ希望

シ居ル所デアリマス即チ從來助産業權ノ狹小ナルヲ擴充シタルニ過ギナイ此ノ點ニ付テハ苟クモ事人間生命ニ關スル以上職業領域ノ限界ヲ超越シテ萬全ヲ期スベキデアリマス

今ヤ諸外國ニ於テハ產婆ニ殆ド醫師ト同程度ノ業務權ヲ與ヘ獨逸ノ如キハ產婆ニ整形外科ノ一部ノ施術ヲ許シ若シ產婆ニシテ不具者ノ届出アル場合ハ行政官ハ該產婆ノ手落ト判明スレバ之ヲ嚴罰シ一面ニ於テハ毎年產婆開業資格ノ確知試驗ヲ行ヒ之ニ不合格ナル者ハ翌年ノ試驗ニ合格スル迄ハ其ノ業務ヲ停止セシムルト云フガ如キ制度ニナッテ居リ夫レ丈助産ノ業務ヲ重大視シテ居ルノデアリマス今日我が國ノ醫學醫術ノ進歩ハ定ニ著シキモノガアリ先進國獨逸ノ壘ヲ摩スルノ時醫學醫術ノ領域ニ在ル助産ノ業ヲ甚ダ輕視シ依然トシテ往時ノ「とりあげ婆」ヨリ一步モ出デヌ所ノ產婆ノ地位ニ放置シアルコトハ帝國第二國民ノ保健ト衛生上トヨリ見テ由々シキ問題ト言ハネバナリマセヌ更ニ一步進ンデ考ヘレバ是ハ助産師デナク助産醫トシテ少クトモ助産ニ關スル限リハ醫師ト對等ノ業務權ヲ與ヘテモ不都合ハナイノデアリマス併シ現在ノ產婆ヲ一躍醫師ト同等ニ法律上之ヲ昇格セシムルコトハ其ノ間產婆ノ學識技能ガ伴ハヌ虞レモアルカラ先ヅ助産師トシテ醫師ニ準ゼシムルコトガ當ヲ得タルモノト思ヒマス是レ本案ヲ提出シタ所以デアリマス

衆議院議事速記録第十四號中
正誤

頁	段	行	誤	正
二五九	二	一七	三判利公債	三分利公債
二五九	三	三〇	論斷	論駁